

N E C

Express5800 シリーズ

ESMPRO<sup>®</sup>/AutomaticRunningController

Ver5.0

UL1046-G01

UL1046-HG01

UL1046-JG01

セットアップカード

# ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。  
とうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

# 目次

第1章	製品内容.....	4
第2章	セットアップの準備.....	5
2.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境.....	5
2.2	ESMPRO/AutomaticRunningController の構成列.....	8
第3章	セットアップの方法.....	9
3.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール.....	9
3.2	ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール.....	15
3.3	ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定.....	20
3.3.1	ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定 (環境設定ウィザードボタン) .....	21
3.3.2	マルチサーバ構成の設定 (「マルチサーバの構成の設定」 (AMC の起動) ボタン) .....	22
3.4	ライセンスキーの登録.....	23
第4章	スケジュール運転の設定.....	25
4.1	スケジュール運転によるサーバの自動運転.....	25
第5章	注意事項.....	31
5.1	セットアップ関連.....	31
5.2	運用関連.....	31
5.3	ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) 連携関連.....	34
5.4	通信ポート番号関連.....	37
5.5	共有フォルダ関連.....	39
5.6	AC-LINK 関連.....	39
第6章	障害発生時には.....	40
6.1	ESMPRO/AutomaticRunningController ログ .....	40
6.2	ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ .....	42
6.3	イベントログ.....	46
6.4	クラスタシステムのログ採取.....	46
6.5	ESMPRO/UPSManager のログ採取.....	46
6.6	PowerChute Business Edition のログ採取.....	46
6.7	バージョン情報.....	47
6.8	SNMP カードからの情報採取.....	48
6.8.1	SNMP カードの情報 (A) .....	50
6.8.2	SNMP カードの情報 (B) .....	53
6.8.3	SNMP カードの情報 (C) .....	59
6.9	Collect ログおよびIPMI ログ.....	67

## 第 1 章 製品内容

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0のパッケージの内容は、製品に同梱されている構成品表に記載されています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

## 第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、コンピュータの環境を準備していただく必要があります。本章の要件を満たした後に ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップを実行してください。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

### 2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

#### ハードウェア

##### <サーバ>

- ・ 対象機種 : Express5800シリーズ、iStorage NSシリーズ
- ・ メモリ : 3.5 MB 以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 7.0 MB 以上
- ・ HW/BIOS機能 (\*) : UPSを使用しない構成でWOL (WakeOnLAN) 機能を使ってサーバのリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL (WakeOnLAN) 機能を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

##### (\*)

サーバ本体HWが提供する機能を利用するため、機種によっては機能が提供されていない場合があります。

これらの機種は、リモート起動を含め自動運転の起動機能は実現できません。また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。この場合には、その後の自動起動も出来ません。

これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存するため、導入の際には、予め使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。

(同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合があります。)

- ※ PowerChute Business Edition、ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition)と連携して自動運転を行う場合にはSmart-UPS相当無停電電源装置が必要になります。Smart-UPS相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、Smart-UPS相当無停電電源装置添付の取扱説明書を参照してください。

<クライアント>

- ・ 対象機種 : PC98-NXシリーズ、PC-AT互換機、Express5800シリーズ
- ・ メモリ : 2. 0MB以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 3. 0MB以上

ソフトウェア

<サーバ>

- ・ OS

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter  
Windows Server 2012 Standard/Datacenter  
Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise  
Windows Server 2008 Standard/Enterprise  
Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server  
Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server  
Windows Storage Server 2012 R2  
Windows Storage Server 2012  
Windows Storage Server 2008 R2  
Windows Storage Server 2008  
Windows Storage Server 2003 R2  
Windows Storage Server 2003  
Windows 8 Pro  
Windows 7 Professional  
Windows Vista Business  
Windows XP Professional

※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerをx64のOSで動作させる場合、WOW64がサポートされている必要があります。

- ・ 連携ソフトウェア

[ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Editionセット)連携による自動運転]  
: ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Editionセット)  
: SNMPサービス

マルチサーバ構成で運用する場合は、ESMPRO/AC Enterprise または  
ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/ACBlade 管理オプション等をインストールしてください。

## <クライアント>

- ・ O S

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter

Windows Server 2012 Standard/Datacenter

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2008 Standard/Enterprise

Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server

Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server

Windows 8 Pro

Windows 7 Professional

Windows Vista Business

Windows XP Professional/Home Edition

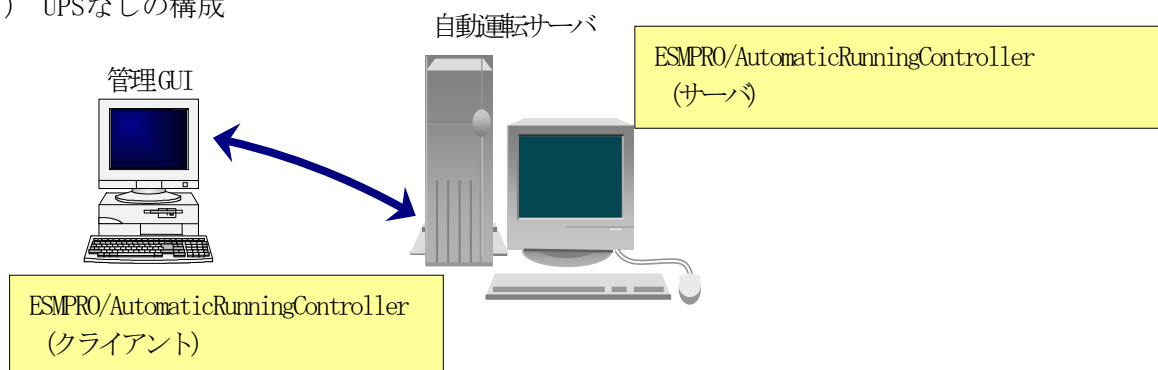
※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerをx64のOSで動作させる場合、WOW64がサポートされている必要があります。

※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerは、Smart-UPS相当無停電電源装置を制御する場合にはESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット)と連携します。サーバには、使用する無停電電源装置に応じて適切な制御ソフトウェアをあらかじめセットアップしておいてください。

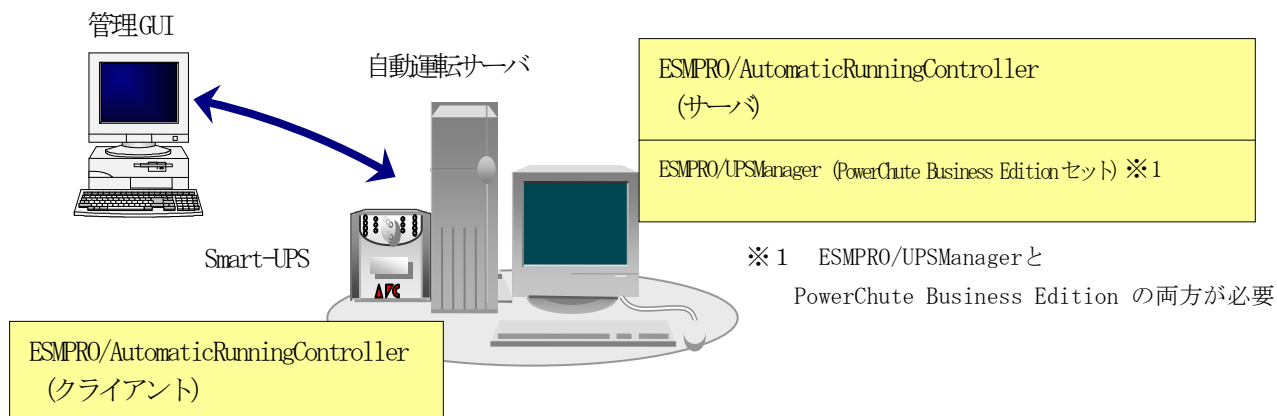
最新の動作環境については、本製品のご紹介サイトでご確認ください。URL情報は製品添付品をご確認ください。

## 2.2 ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例

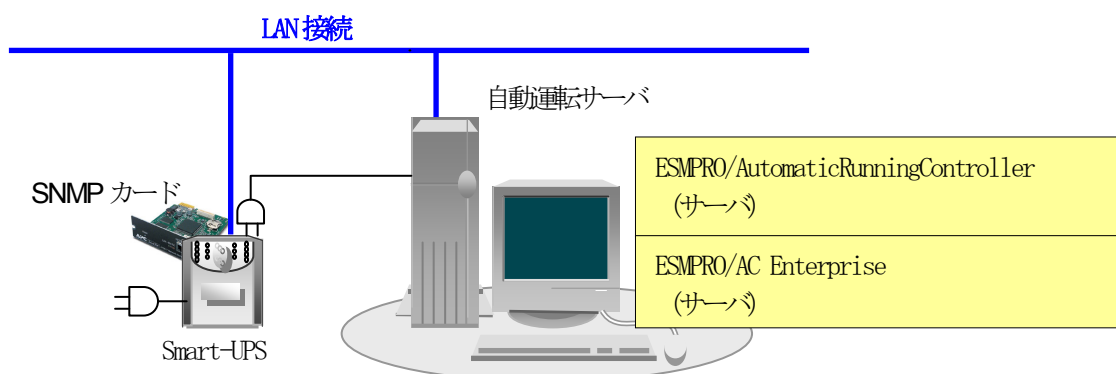
### (1) UPSなしの構成



### (2) Smart-UPS構成 (UPSシリアル接続)



### (3) Smart-UPS (SNMP) 構成 (UPS LAN接続)



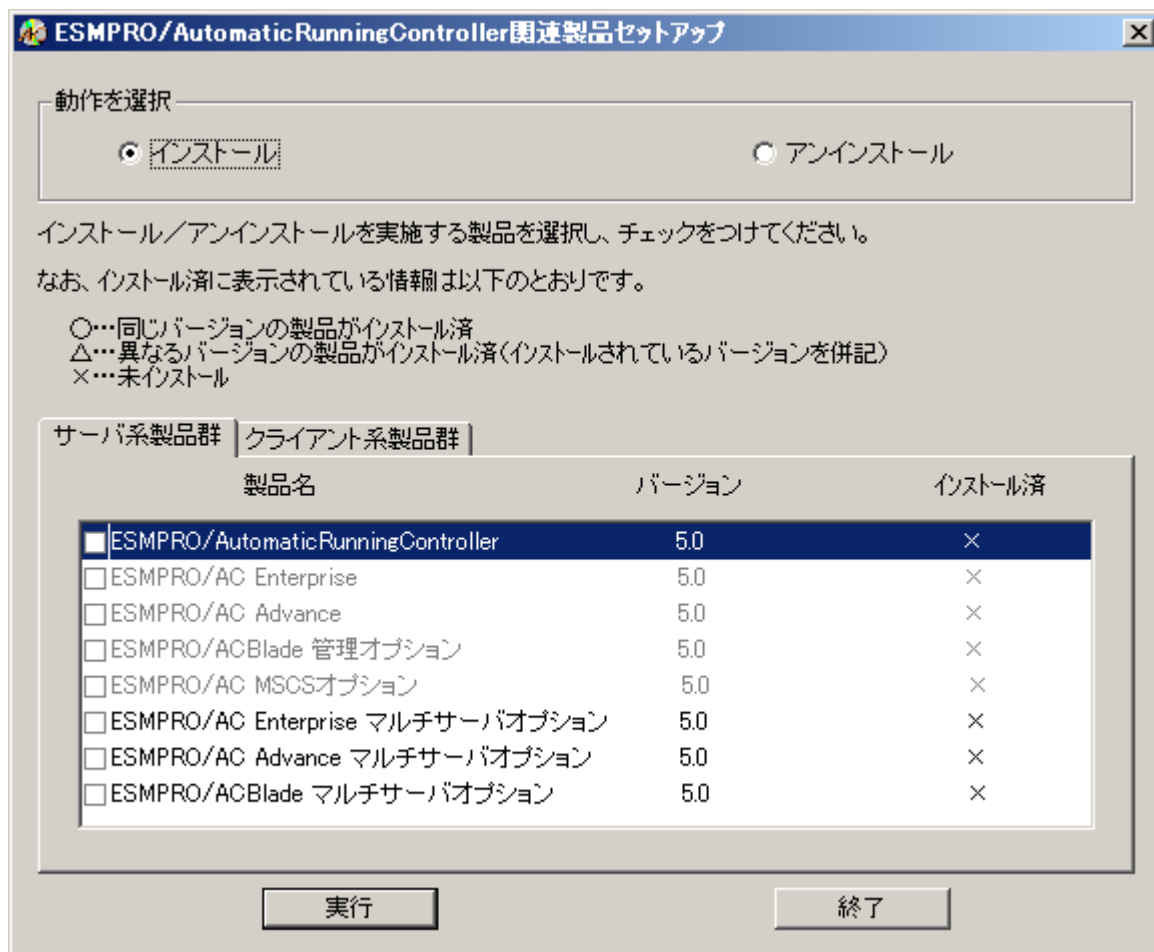
- ESMPRO/AutomaticRunningController をインストールするサーバには、Smart-UPS 相当無停電電源装置を使用する場合は、ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) を、あらかじめインストールしておく必要があります。
- 複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合の構成例は、ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/ACBlade 管理オプション等 (共にオプション製品) の資料をご参照ください。



## 第3章 セットアップの方法

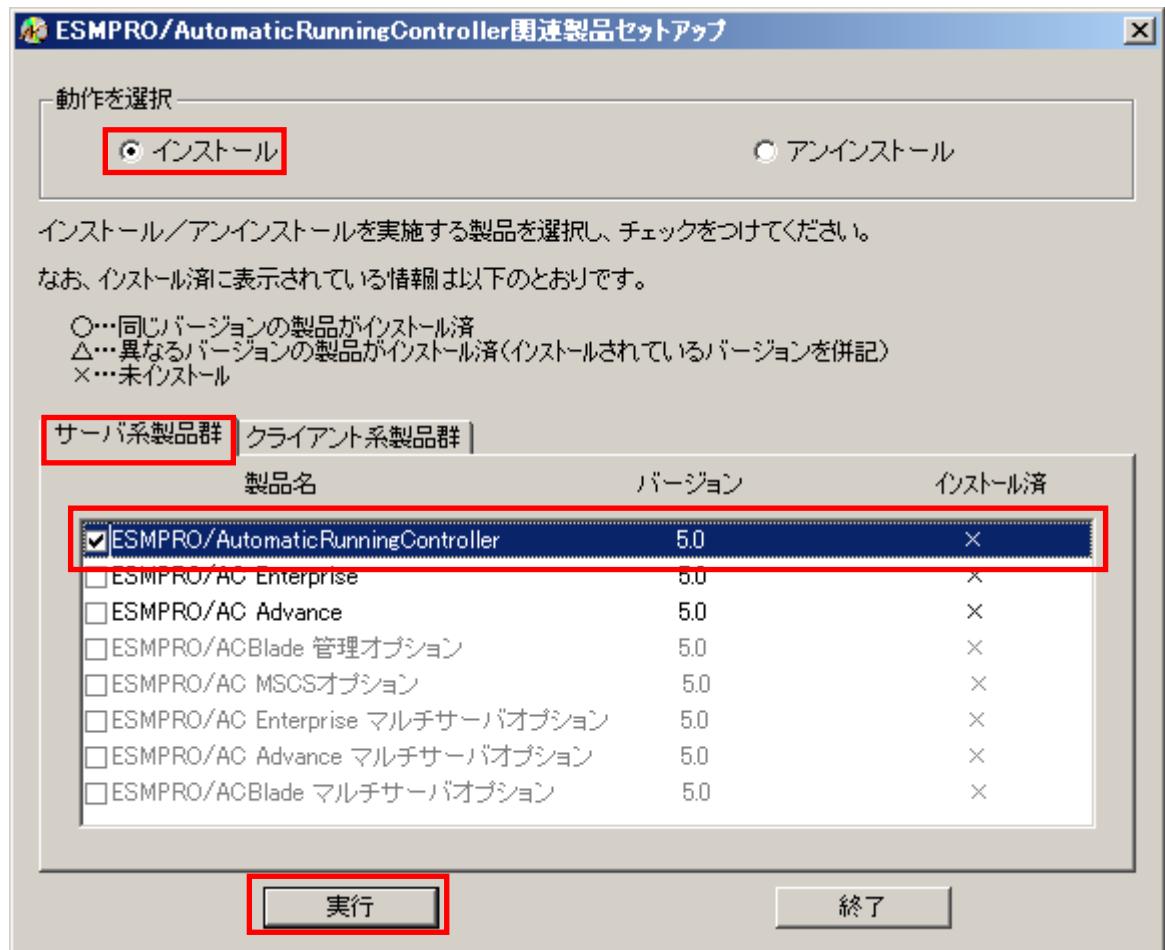
### 3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。



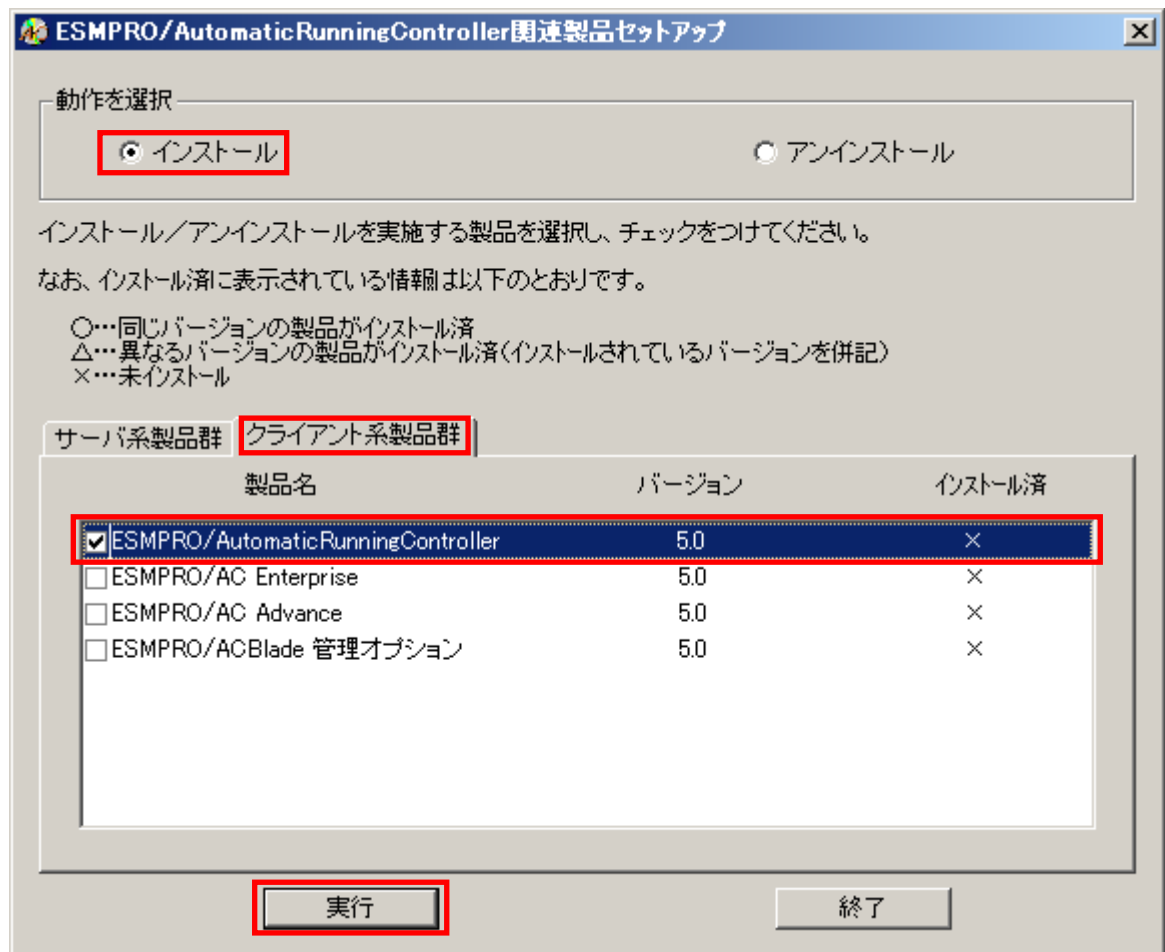
(3) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AutomaticRunningControllerのサーバ系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。



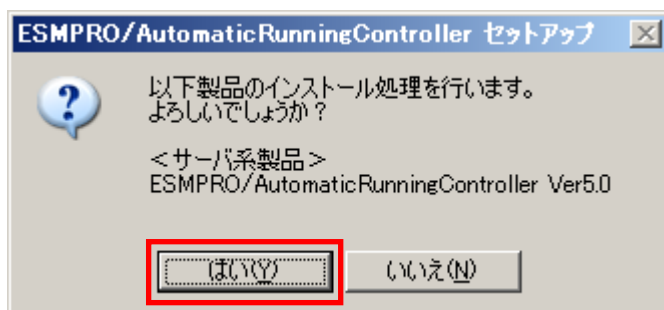
サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等）も同時に選択可能となり、順次インストールすることができます。

- ◆ ESMPRO/AutomaticRunningControllerのクライアント系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

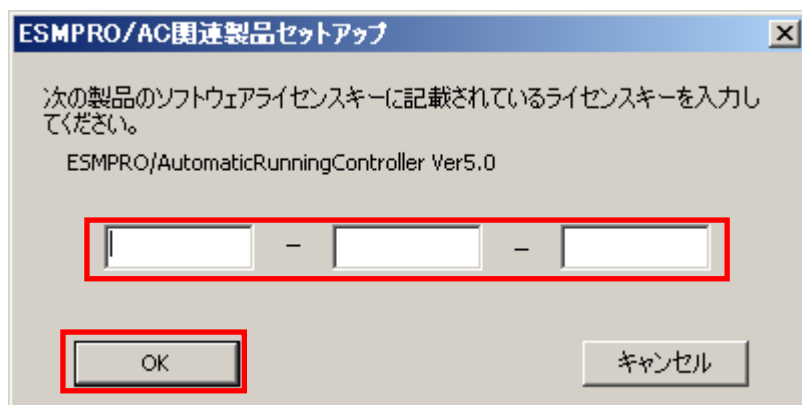


(4) 「実行」ボタンを選択します。

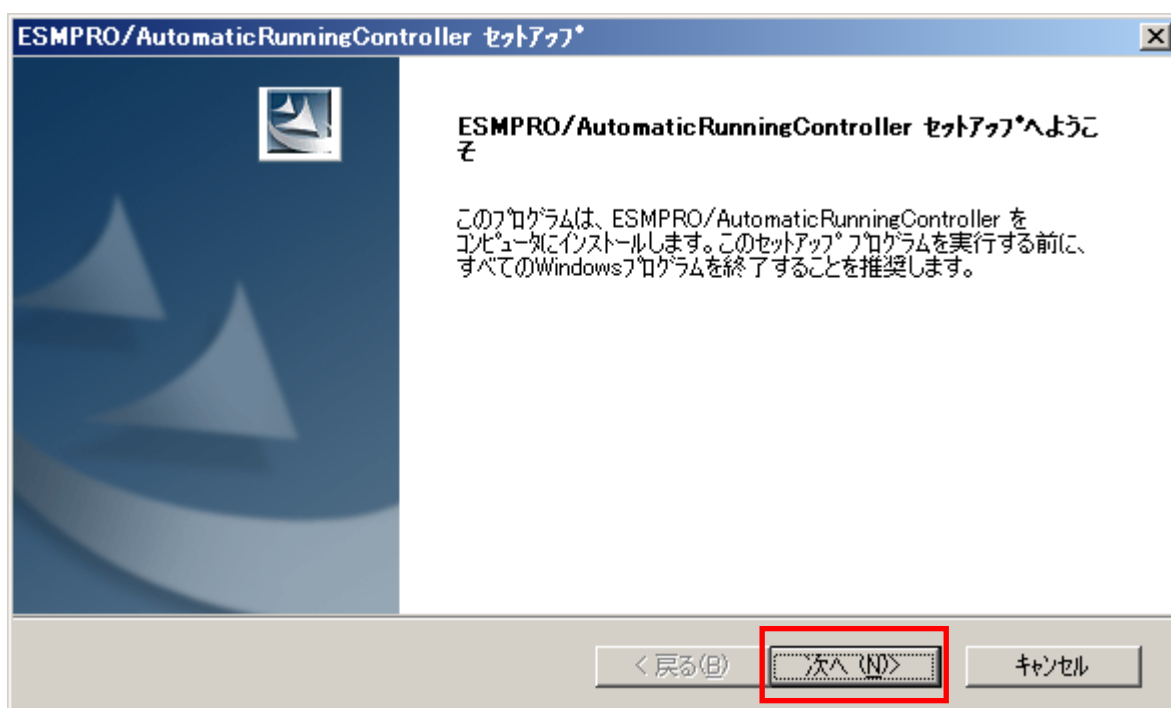
(5) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



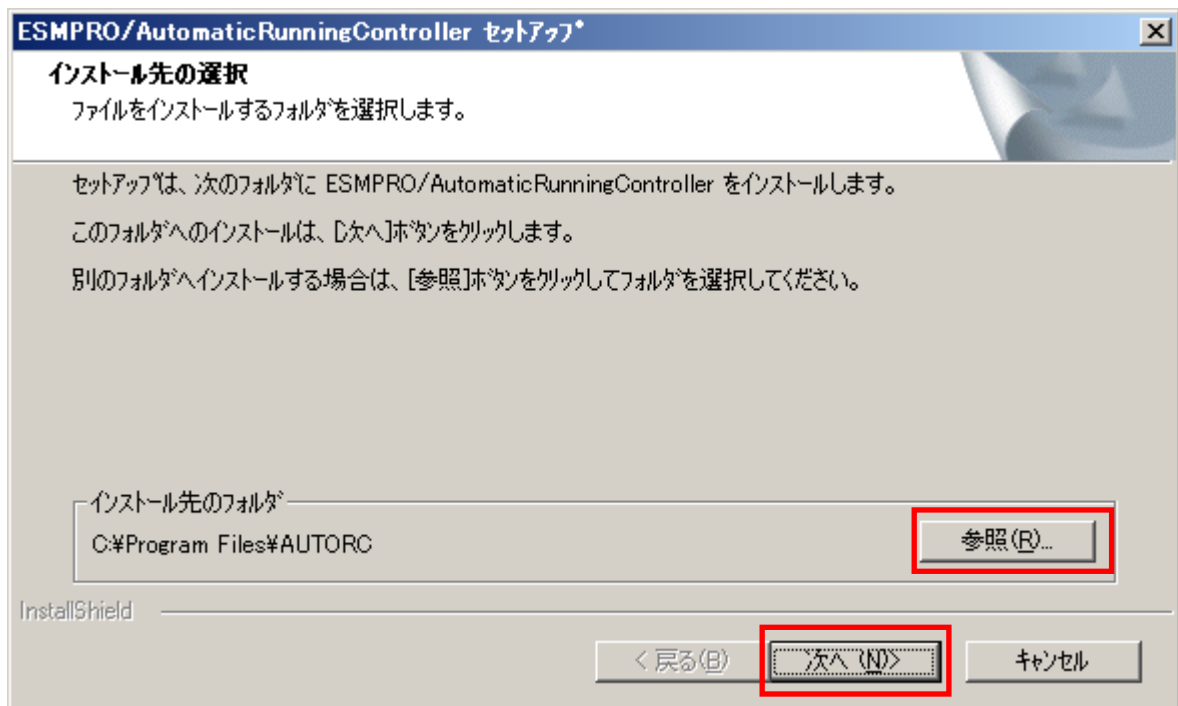
- (6) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。



- (7) 入力したライセンスキーが認証されると、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップが開始されますので、「次へ」ボタンを選択します。

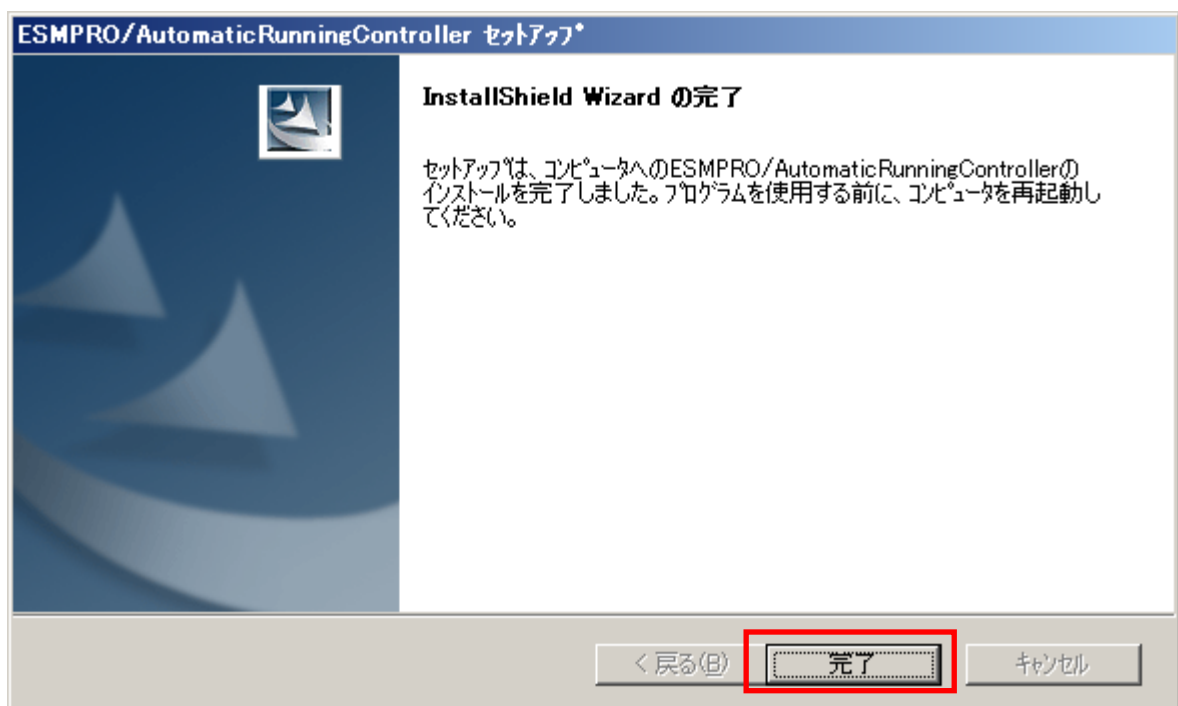


- (8) 続いて、インストール先を選択します。表示されているフォルダとは別のフォルダにインストールする場合は、「参照」ボタンをクリックしてインストール先のフォルダを選択します。インストール先が決定したら、「次へ」ボタンを選択します。

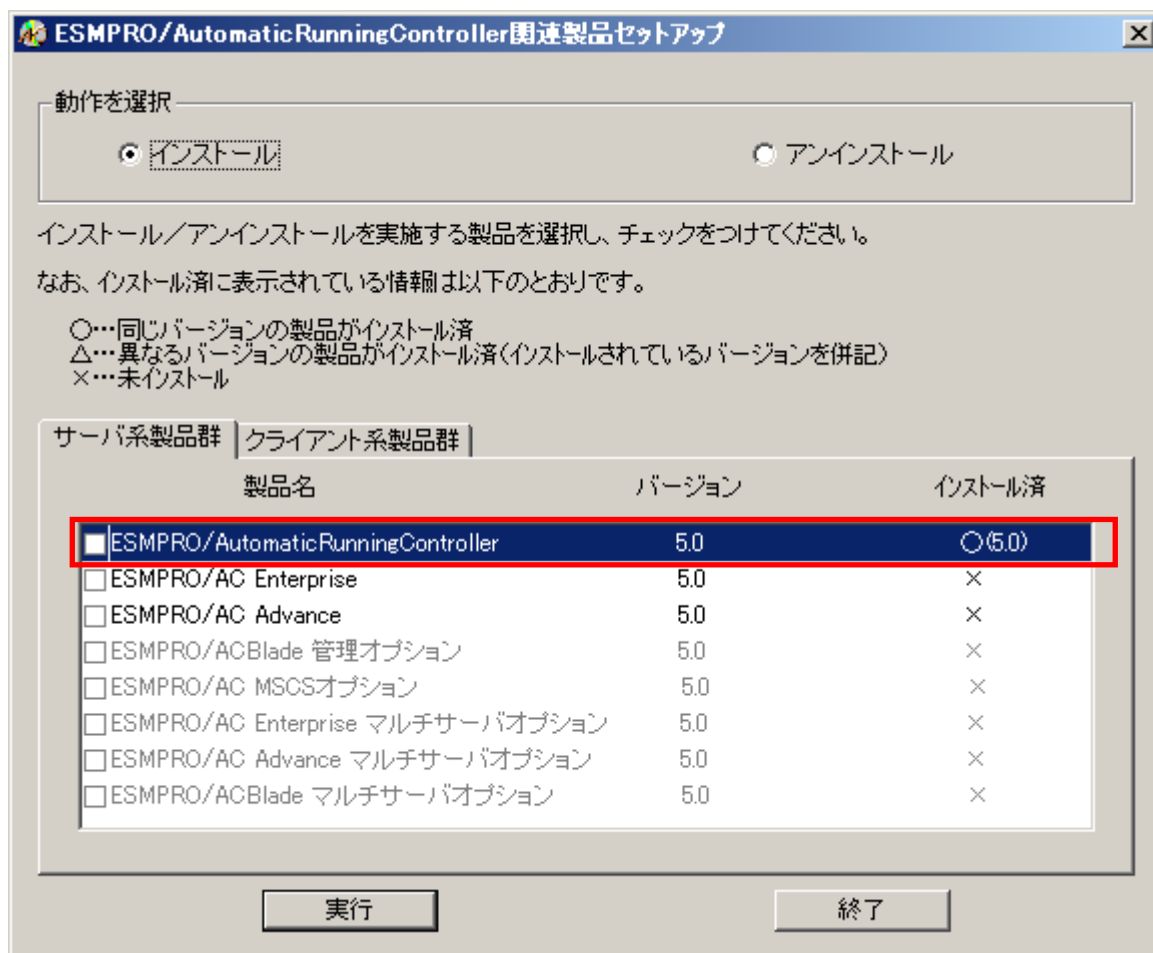


- (9) ファイルの転送が開始されます。

- (10) 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。



- (11) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に○およびバージョンが表示されていることを確認します。



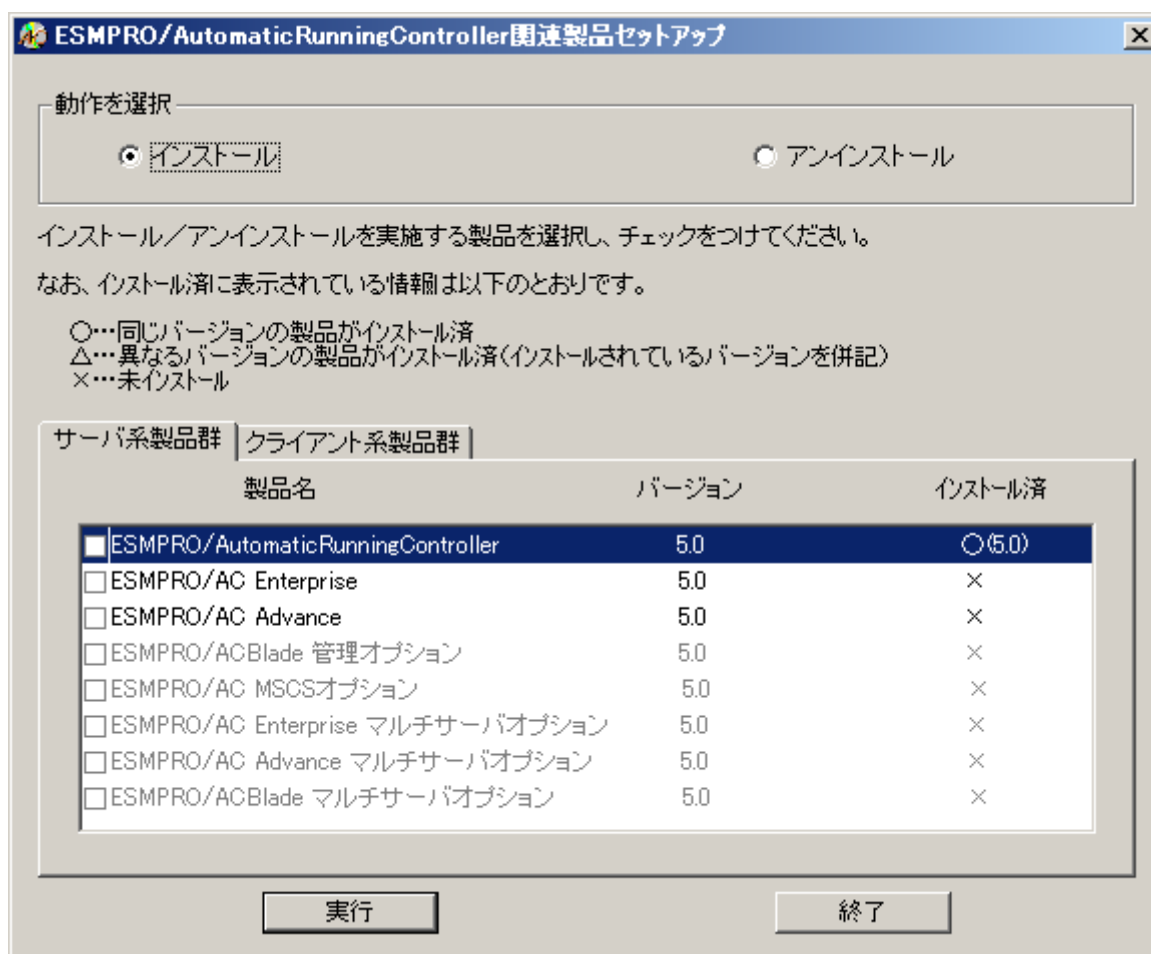
## 注意

- 引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/ACBlade 管理オプション、ESMPRO/AC MSCS オプション) をインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。
- 上書きインストールの場合は、上記 (6) ～ (8) の手順が省かれ、インストールが実行されます。インストール先を変更することはできません。また、上書きインストールでは、これまでの運用で設定した情報を保持したまま、モジュールのコピーを行います。
- PowerChute Business Edition、ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition) と連携して運用する場合は、必ず「ESMPRO\_AC 環境ウィザード」で動作環境の設定を行ってください。バージョンアップセットアップおよび上書きインストールの場合も、同様に設定を行ってください。
- セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。

## 3.2 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

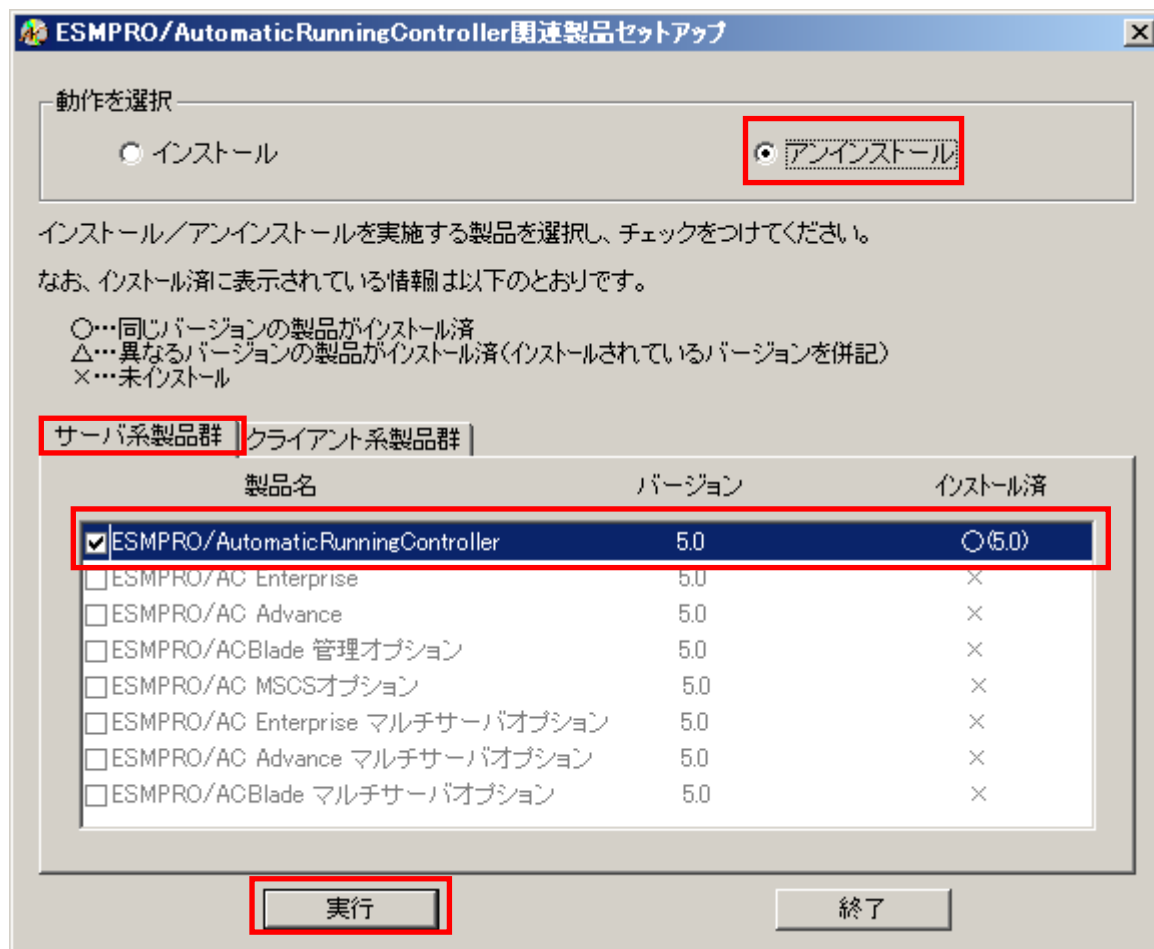
### 注意

- 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/ACBlade 管理オプション、ESMPRO/AC MSCS オプション) がインストールされている場合は、先にそれらの製品のアンインストールを実行します。(方法についてはオプション製品のセットアップカードを参照してください。)
  - 対象サーバに CLUSTERPRO がインストールされている場合は、CLUSTERPRO のサービスを停止します。(CLUSTERPRO サービスの停止方法については、CLUSTERPRO のマニュアルを参照してください。)
- (1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。



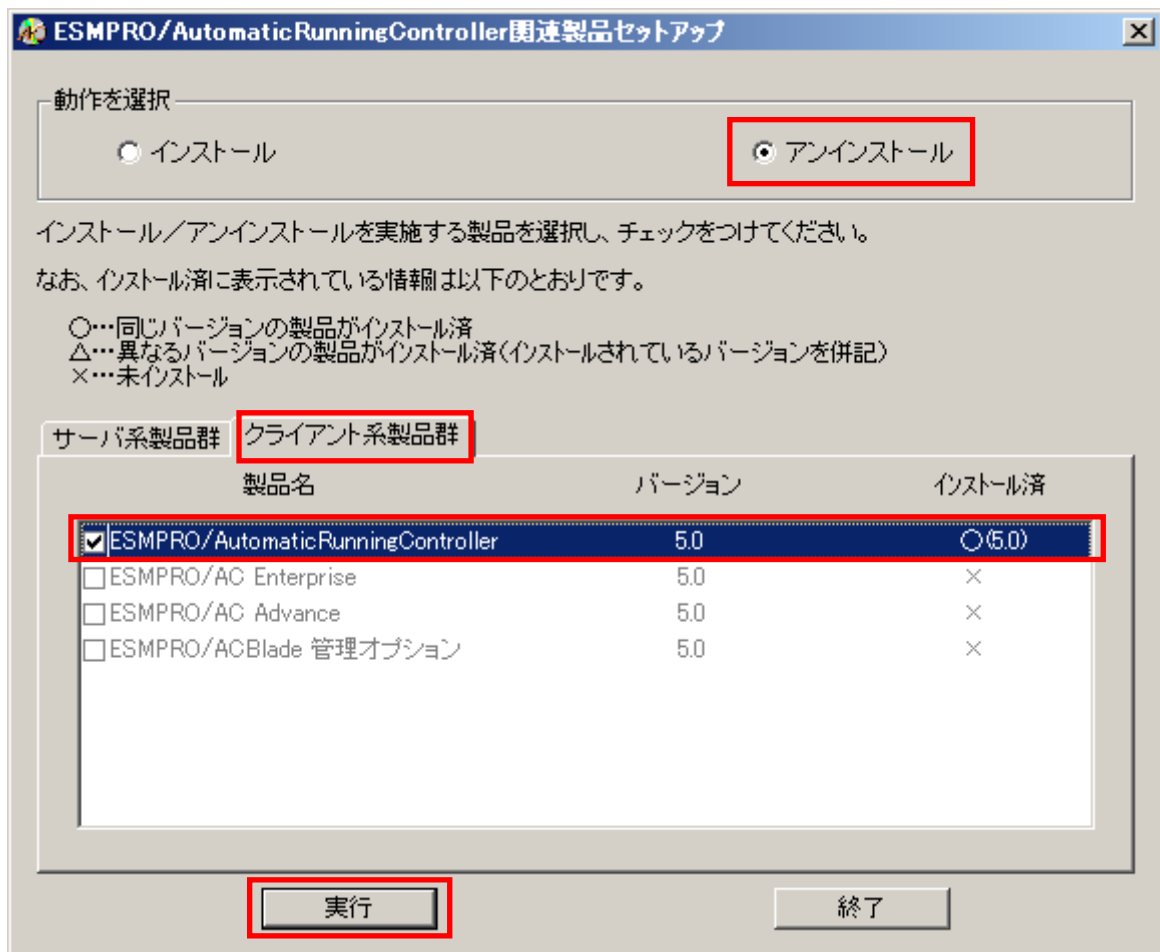
- (3) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AutomaticRunningControllerのサーバ系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。



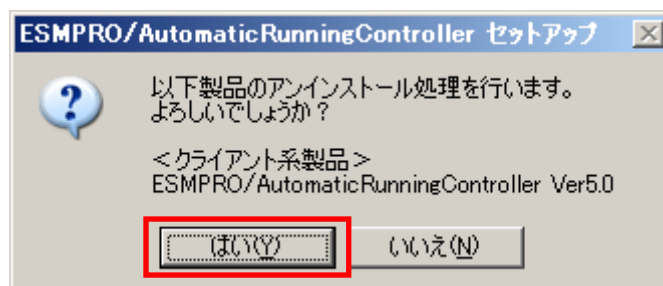


- ◆ ESMPRO/AutomaticRunningControllerのクライアント系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

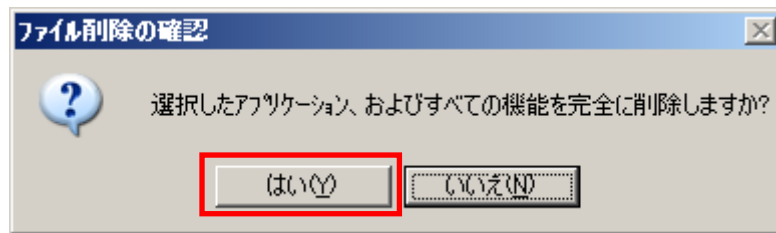


(4) 「実行」ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

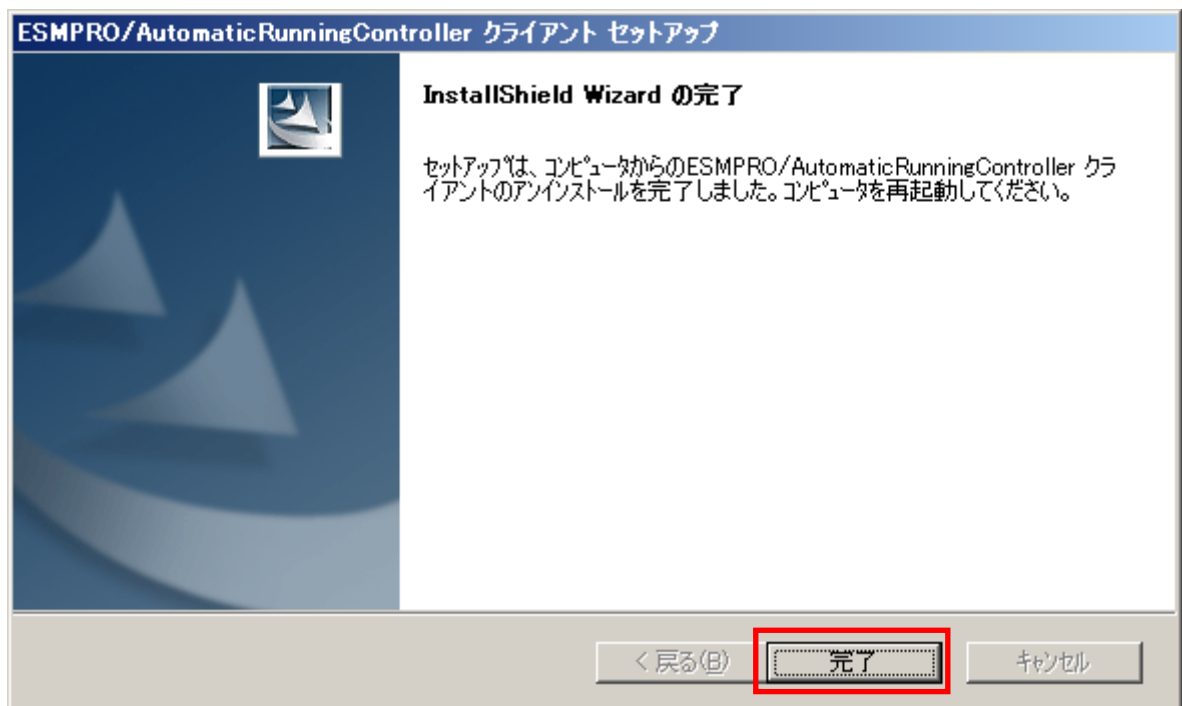


- (6) インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

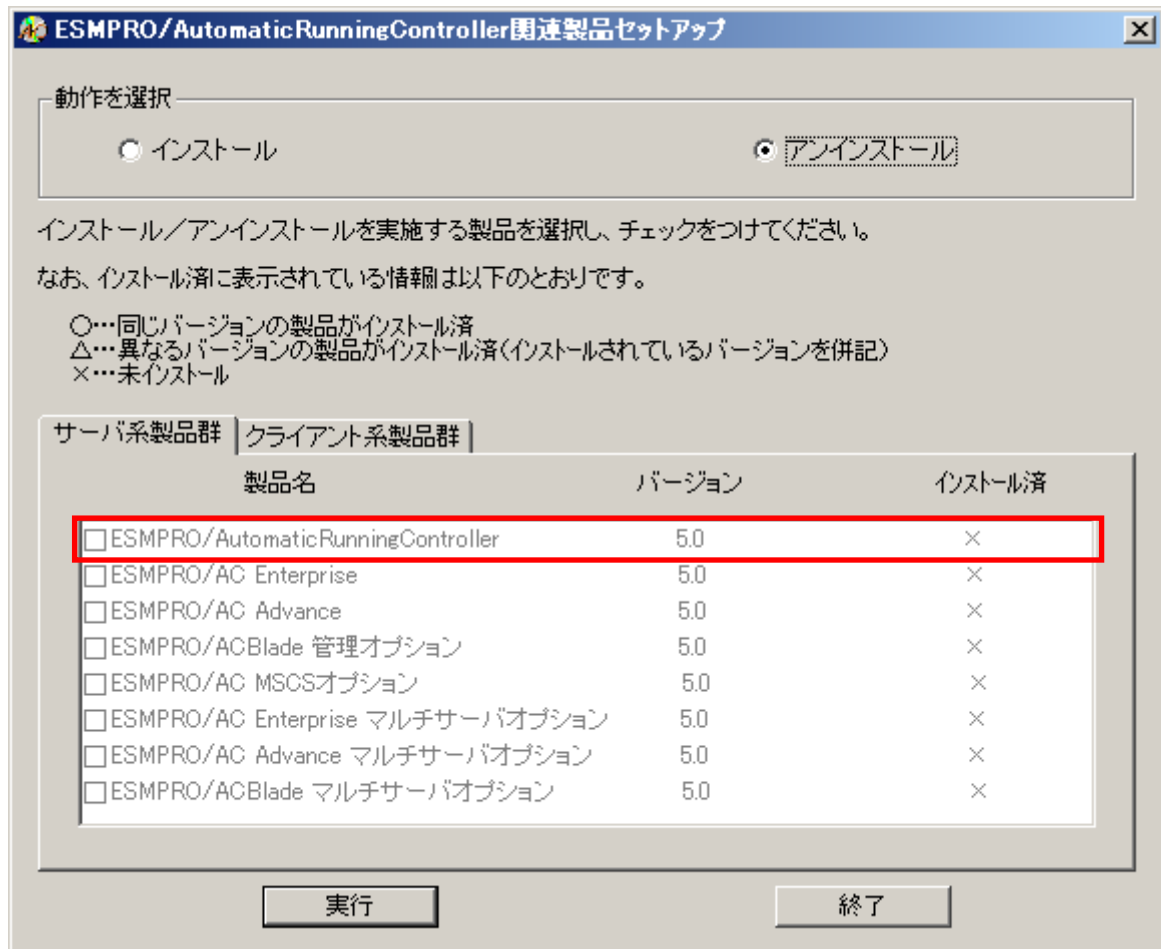


- (7) ファイルの削除が行われます。

- (8) 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。



- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。



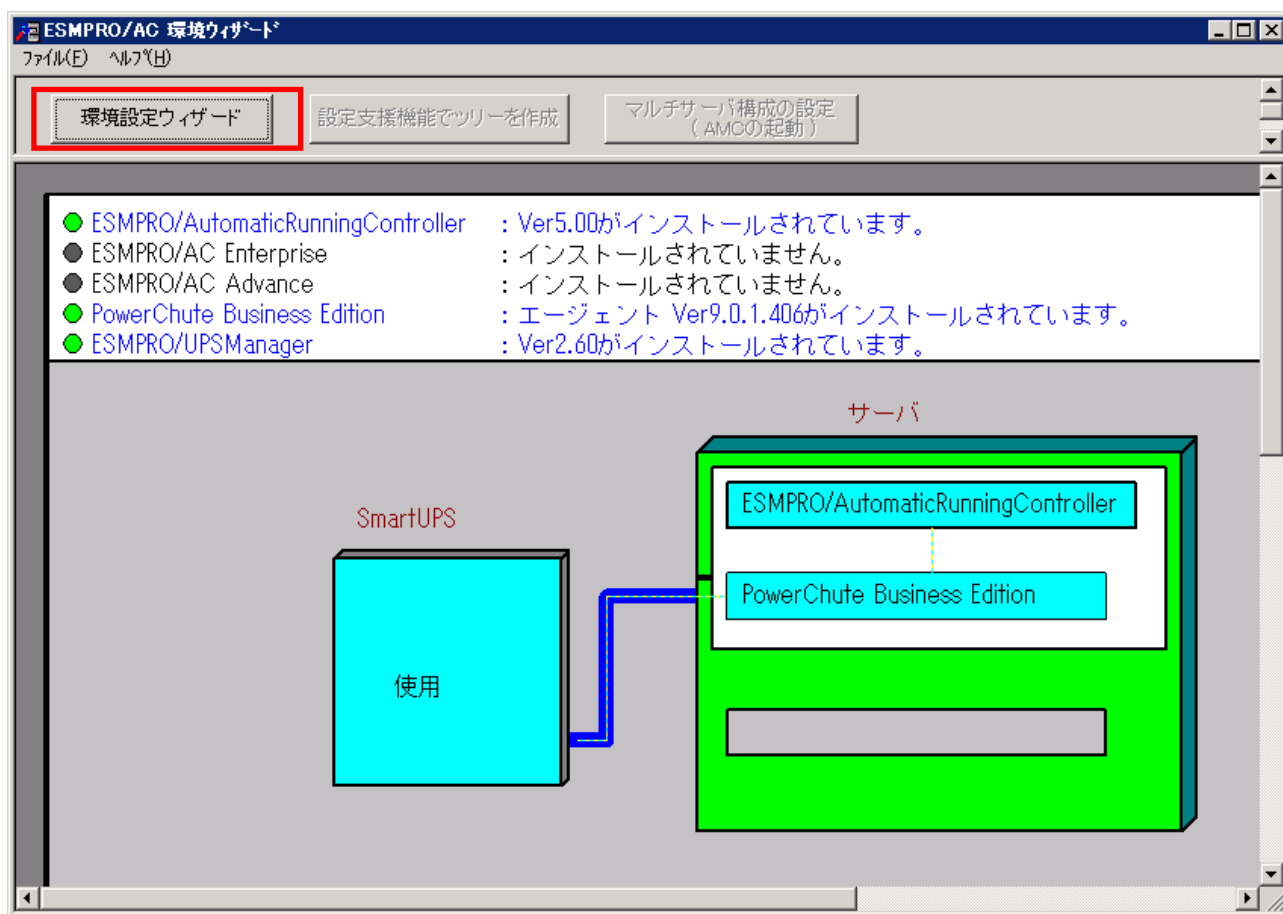
- (10) アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

### 3.3 ESMPRO\_AC 環境ウィザードによる設定

「ESMPRO\_AC 環境ウィザード」により、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定を行う必要があります。

PowerChute Business Edition または ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition) と連携して自動運転を行う場合は、本設定を行う前に連携ソフトウェアをインストールしておく必要があります。

「ESMPRO\_AC 環境ウィザード」を起動するには、「スタート」－「プログラム」－「ESMPRO\_AutomaticRunningController」より、「ESMPRO\_AC 環境ウィザード」を選択してください。



### 3.3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定（環境設定ウィザードボタン）

「環境設定ウィザード」ボタンを押すと、環境設定ウィザードが起動されます。  
以下、環境設定ウィザードにおける、連携ソフトごとの設定項目を表す記号を示します。実際に運用する環境に該当する項目のみご参照ください。

- UPS をネットワーク経由で制御し電源管理／自動運転を行う場合の設定項目
- ◎ PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う場合の設定項目
- △ UPS を使用せずに自動運転を行う場合の設定項目

#### Step1

- UPS 本体装置に SNMP カードを実装した Smart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、“UPS をネットワーク経由で制御し電源管理／自動運転を行う”を選択します。

この選択をするためには、『ESMPRO/AC Enterprise』のインストールが必須です。

- ◎ ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) と連携して Smart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、“PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う”を選択します。

PowerChute Business Edition がインストールされていない場合、Step1 の画面には、PowerChute Business Edition の選択肢は表示されません。

- △ UPS を使用せずに自動運転を行う場合は、“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択します。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを押します。

#### Step2

- ◎ Step1 で“PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う”を選択した場合、PowerChute Business Edition と連携させるために必要なソフトウェア及びサービスがインストールされているかどうかが表示されます。連携を行うのに必要なすべてのソフトウェア及びサービスがインストールされていれば、SNMP サービス及び ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行うことができます。それらの接続が成功した場合は Step3 に進みます。

#### （注意）

以下のソフトウェアが、未インストールまたはサービス停止中の場合、以降の作業を行うことができません。

PowerChute Business Edition エージェントサービス  
UPSSleep.exe （PowerChute Business Edition オプション）  
ESMPRO/UPSManager サービス  
SNMP サービス

#### <SNMP サービスとの接続確認>

OS のサービスマネージャより、SNMP サービスの「プロパティ」->「セキュリティ」->「受け付けるコミュニティ名」に登録したコミュニティ名を入力して、「接続確認」ボタンを選択して、接続確認を行います。

＜ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認＞

「接続確認」ボタンで、ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行います。

- Step1 で“UPS をネットワーク経由で制御し電源管理／自動運転を行う”または“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択した場合はStep3に進みます。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを選択します。

#### Step3

これまでの設定内容が表示されます。

「完了」ボタンを選択すると、ESMPRO /AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。

「完了」ボタンを押すと、ESMPRO/AutomaticRunningController サービスが再起動され、「ESMPRO\_AC 環境設定ウィザード」の設定内容が変更されます。

### 3.3.2 マルチサーバ構成の設定（「マルチサーバの構成の設定」（AMC の起動）ボタン）

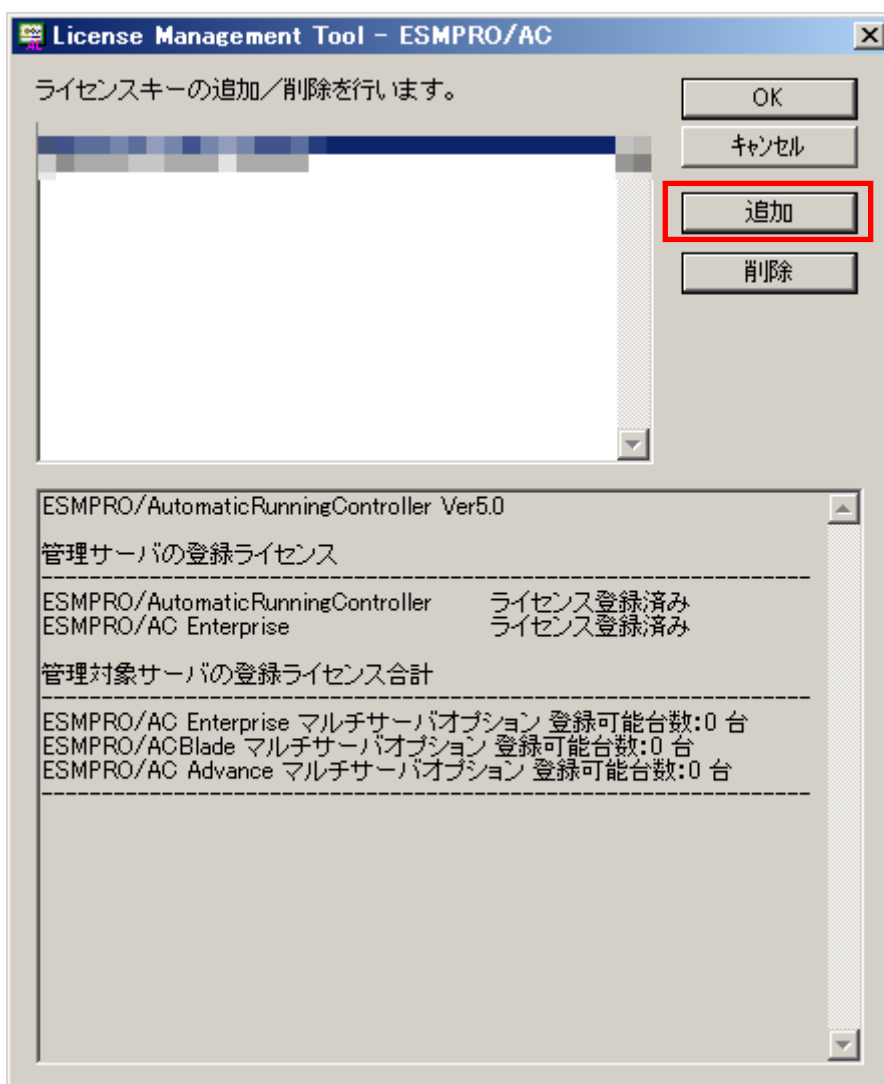
ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC Advance がインストールされている場合は、「マルチサーバ構成の設定（AMC の起動）」ボタンを押すと、「AC Management Console」が起動されます。

### 3.4 ライセンスキーの登録

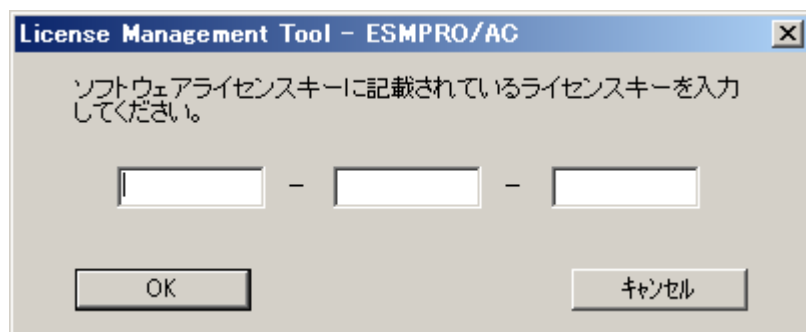
以下の条件でESMPRO/ AutomaticRunningController関連製品をインストールした場合、ライセンスキー登録作業が必要です。

- ESMPRO/AC Enterpriseをインストールして、ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションをインストールしたサーバを連動端末として使用する場合。
- ESMPRO/AC EnterpriseおよびESMPRO/ACBlade 管理オプションをインストールして、ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしたサーバを連動端末として使用する場合。
- ESMPRO/AC Advanceをインストールして、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションをインストールしたサーバを連動端末として使用する場合。
- DeploymentManagerを使用して、ESMPRO/ AutomaticRunningController、ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/ACBlade 管理オプションをインストールした場合。
- VMware ESXiを監視対象として登録する場合。

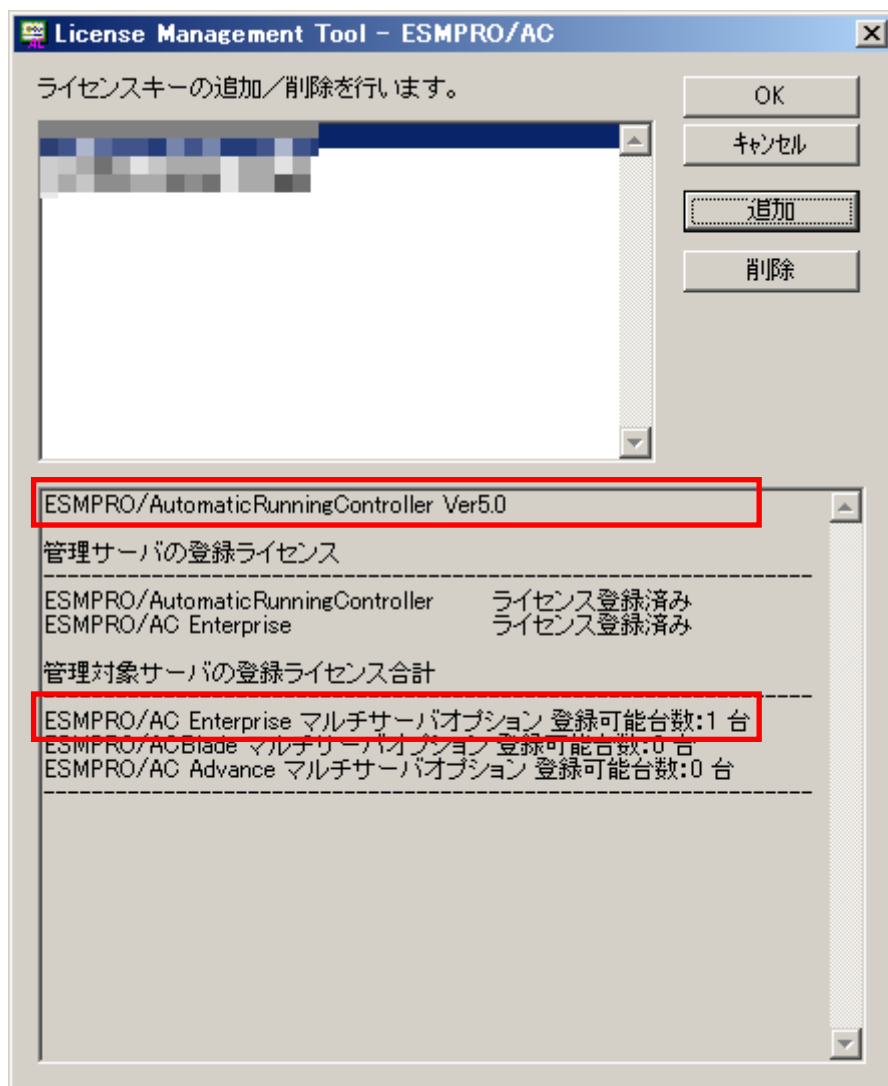
(1) [スタート]→[すべてのプログラム]→[ESMPRO/AutomaticRunningController]→[ESMPRO\_ACライセンス]を起動し、「追加」ボタンを選択します。



- (2) ライセンスキーの入力画面が表示されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。



- (3) 下図のように登録したライセンスキーが表示されていることを確認します。





## 第4章 スケジュール運転の設定

### 4.1 スケジュール運転によるサーバの自動運転

自動運転を行うサーバのスケジュール登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』の設定を行う必要があります。

以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。

①月曜日から金曜日までは、8時00分に電源投入。17時00分に電源切断。

②土日祝は、運用しない。

#### (1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動

[スタート]メニュー → [すべてのプログラム] → [ESMPRO\_AutomaticRunningController] → [ESMPRO\_AC] を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので「スケジュール」ボタンを押してください。



- (2) 「スケジュール」画面が表示されますので、画面内の  
“通常 09時00分から17時00分まで”（赤枠）を選択し「修正」ボタンを押してください。

“月曜日から金曜日までは、8時00分に電源投入。17時00分に電源切断。”  
設定を行います。  
投入時間を9時00分→8時00分に変更し、「OK」ボタンを選択してください。

(3) 「スケジュール」画面に戻りますので、(2)で変更した時間が反映されているか確認を行います。  
問題なければ、「設定」ボタンを選択して、「②土日祝は、運用しない。」の設定を行います。

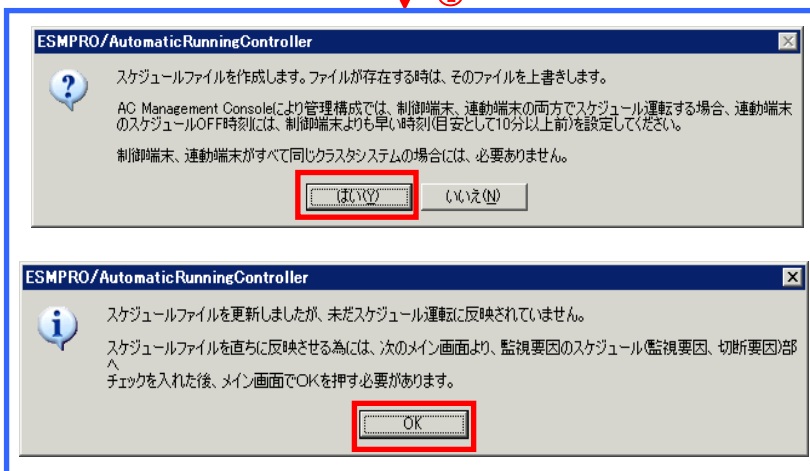
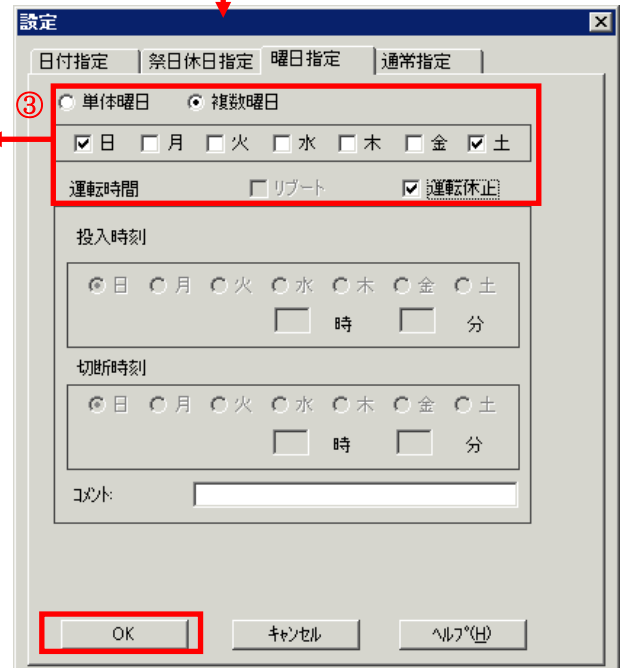
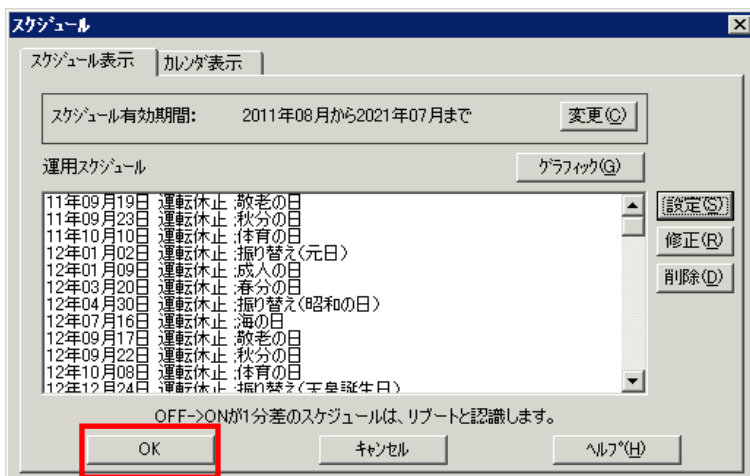
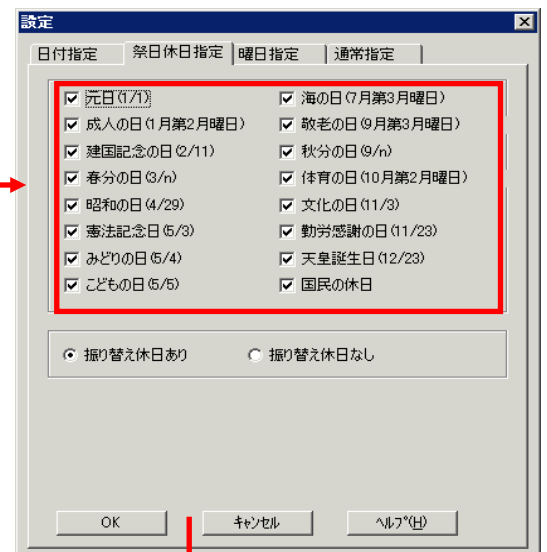
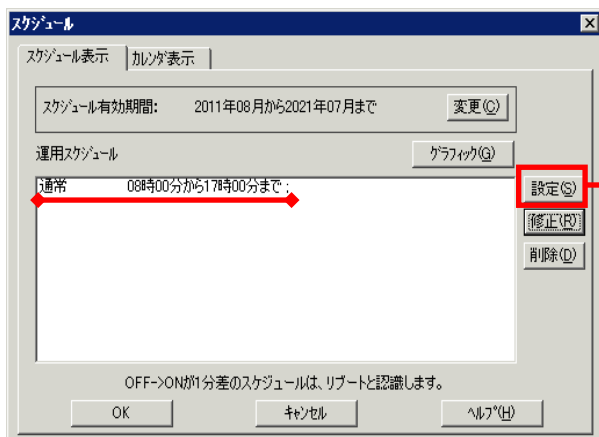
①「設定」画面が表示されましたら「祭日休日指定」タブを選択します。赤枠内全てのチェックを有効にします。

②次に「曜日指定」タブを選択します。

同じく赤枠内のように、「複数曜日」と「日」、「土」、「運転休止」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択してください。

③「スケジュール」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択してください。

④青枠のようなメッセージ画面が表示されますので、全て「はい」または「OK」ボタンを選択してください。

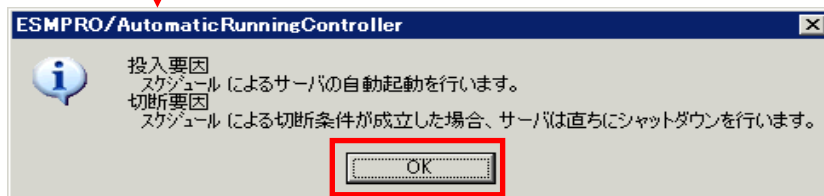
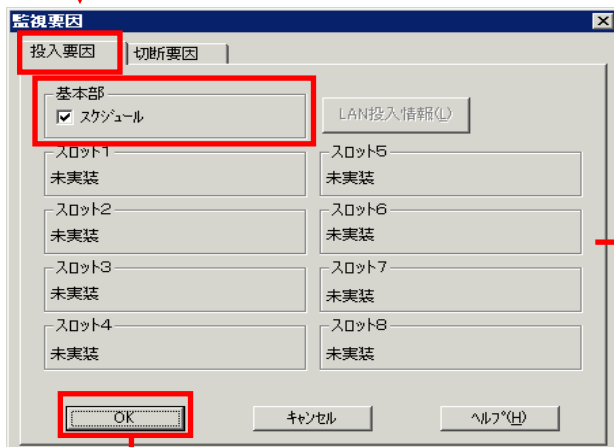


(4) 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

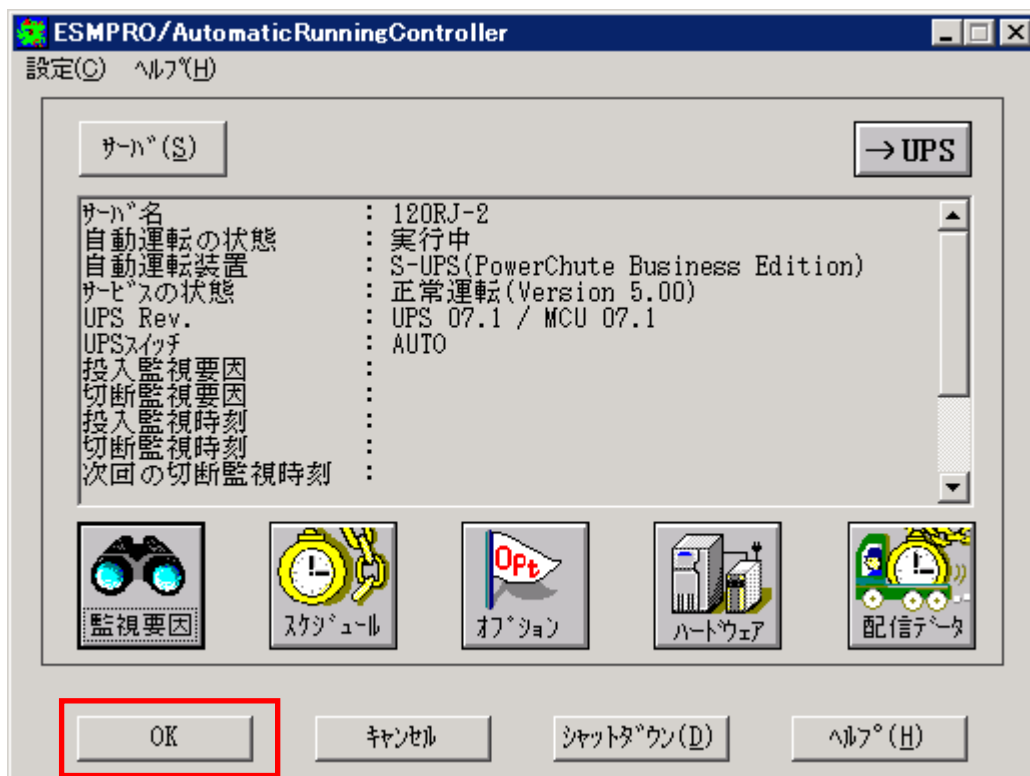
①以下のような画面が表示されましたら、「投入要因」タブと「切断要因」タブ内にある、「基本部」欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。

その後「OK」ボタンを選択してください。

②メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。



(5) 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。



以下のような画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

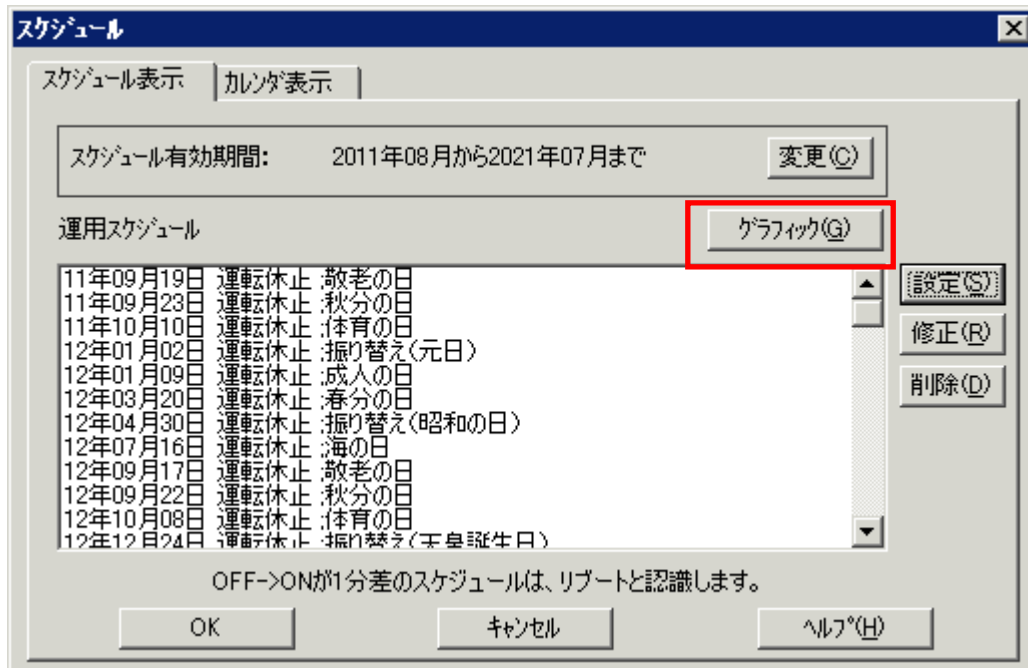
「OK」ボタンを押しますと、ESM PRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。



(注意事項)

スケジュール設定につきましては、『ESMPRO/AC GUI』のヘルプ、  
”「スケジュール」ダイアログボックス”をご参照ください。

- ・ スケジュールの設定には優先順位があり、日付項目→曜日項目→通常項目という順立で優先されます。
- ・ 祭日休日は、設定した時のスケジュールの有効期限内のみ運転休止に登録します。
- ・ 設定後は、グラフィック表示やカレンダー表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。



## 第5章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController を使用する際には、次の点にご注意ください。

### 5.1 セットアップ関連

- (1) ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザーインターフェイスを起動する場合は、「ESMPRO/ServerManager」のインストールを先に行う必要があります。

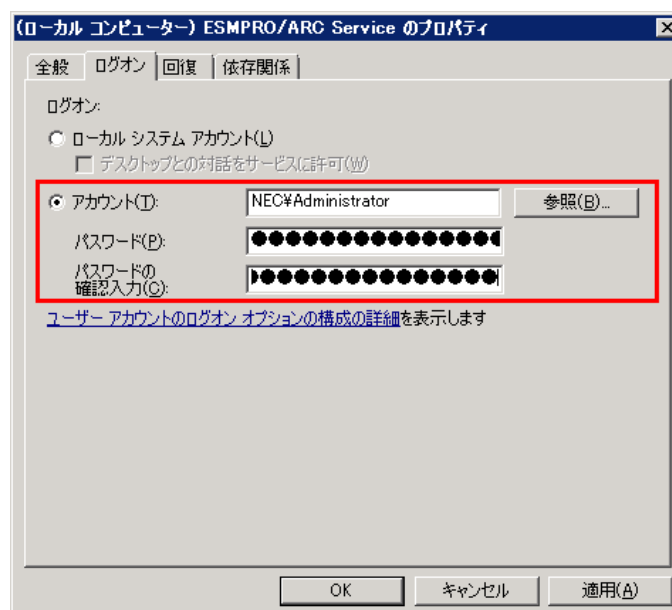
### 5.2 運用関連

- (1) Windows サーバをご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」はOFF（初期状態）にしてください。  
「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。
- (2) 自動電源制御を行っている際は、サーバ本体のパワースイッチを使用して電源を切断しないでください。もしサーバ本体のパワースイッチにより電源切断を実行した場合、次回の電源自動投入は行われません。Smart-UPS をご使用の場合は、ON/テストボタンやLCDパネルからの操作により電源投入を行ってください。なお、Smart-UPS のOFF ボタンやLCDパネルからの操作によりUPSを停止すると、サーバはシャットダウンが行われずにそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。
- (3) ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザーインターフェイスで行う操作は、Administrator 権限のあるユーザでのみ行うことができます。
- (4) スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にすることを推奨します。
- (5) Windows Server 2008 等の「ユーザーアカウント制御」機能が含まれるOSにおいて、「ユーザーアカウント制御」を有効化している場合、インストール時に起動するSetupac.exeや、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのGUIを実行すると以下のような確認ダイアログが表示される場合があります。「続行」ボタンを選択して起動してください。



- (6) Windows Server 2008 以降の OS でターミナル サービス監視を行う場合、「ローカルサーバのみ監視」、「ローカルサーバ/リモートサーバ（共通条件）を監視」、「ローカルサーバ/リモートサーバ（個別条件）を監視」の設定画面では、「セッション数を監視する」チェックを有効にして、1 以上の値を設定していただく必要があります。
- また、「ローカルサーバ/リモートサーバ（共通条件）を監視」や「ローカルサーバ/リモートサーバ（個別条件）を監視」でリモートサーバを監視する場合、「ESMPRO/ARC Service」サービスには、ドメインサーバの Administrator アカウントを割り当てる設定を行う必要があります。

1. [管理ツール]→[サービス]を起動し、「ESMPRO/ARC Service」プロパティを表示してください。「ESMPRO/ARC Serviceのプロパティ」画面が表示されます。
2. “ログオン”タブを選択して表示される画面において、「アカウント」を選択し、「アカウント」、「パスワード」の設定を行ってください。
  - アカウント：アカウント情報にドメインサーバの“Administrator”の情報を入力してください。
  - パスワード：「ログオン」アカウントのパスワード情報を入力してください





- (7) 本バージョンの ESMPRO/AutomaticRunningController は、JIS2004 で新規追加された文字に対応しておりません。そのため、インストール時のインストールパスや、GUI 操作において、JIS2004 の新規追加文字が含まれるパス情報は指定、入力しないでください。
- (8) AC GUI や AC Management Console からユーザーアカウント制御機能を有効にしている Windows Server 2008 などの Windows OS へネットワーク接続する場合、Administrator アカウントによるネットワーク接続が必要です。
- (9) Smart-UPS 相当無停電電源装置を使用してスケジュール運転を行っている環境で、ESMPRO/AutomaticRunningController のシャットダウン以外でシャットダウンを行った場合、ESMPRO/AutomaticRunningController のスケジュール機能は有効になりません。  
また、停電によるシャットダウンが行われ、スケジュール OFF 時刻経過後に復電により起動してきた場合、スケジュール OFF 時刻は経過しているため、スケジュールによるシャットダウンは行われません。

「ESMPRO\_AC ヘルプ」情報の「ご使用にあたってのご注意」および「トラブルシューティング」もご覧ください。「ESMPRO\_AC ヘルプ」はスタートメニューから起動することができます。

## 5.3 ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) 連携 関連

- (1) ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) と連携して自動運転を行う動作環境を構築する場合は、以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。

ソフトウェア名	インストール先
PowerChute Business Edition エージェント	ローカルコンピュータ
PowerChute Business Edition コンソール	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータ
PowerChute Business Edition サーバ	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータ
PowerChute Business Edition UPSSleep.exe (PowerChute Business Edition オプション品)	ローカルコンピュータ
ESMPRO/UPSManager Ver2.0 以降 サーバ	ローカルコンピュータ
SNMP サービス	ローカルコンピュータ

- (2) 停電発生時のシャットダウン開始時間は、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」から設定してください。

### <LCD パネル無し Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面の「サーバシャットダウン」→「電源障害」→「電源障害時のシャットダウン開始」で設定してください。

### <LCD パネル付き Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウンの設定」画面の「電源障害時のシャットダウン開始」で設定してください。

- (3) スケジュールの設定は、PowerChute Business Edition 「コンソール」および「WebUI」で行わず、ESMPRO/AutomaticRunningController の GUI のみで行ってください。PowerChute Business Edition でスケジュール登録すると、連携動作が正常に動作しません。

- (4) 電源切断猶予時間とは、OS シャットダウン開始後、UPS 装置からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目になります。この設定値が短い場合、シャットダウン途中で UPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。必ず、運用されているシステムに適した値になっているかを確認し、変更の必要がある場合は設定値を変更し、運用してください。OS のシャットダウンに必要な時間はシステム毎に異なるため、設定値は実環境のサーバを使用して OS のシャットダウン時間を複数回計測し、その結果を十分に超える時間を設定してください。

### <LCD パネル無し Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面を表示後、「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択した後に表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面(後述)の次の画面(バググラフが表示される画面)にて、“OS”を選択した状態での「期

間」に十分な値を設定してください。

#### ＜LCD パネル付き Smart-UPS の場合＞

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウの設定」画面の「OS がシャットダウンする時間」に十分な値を設定してください。

- (5) ESMPro/AutomaticRunningController において、「電源異常切断時に登録ジョブを起動する」を有効にする場合には、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」からの設定が必要となります。

#### ＜LCD パネル無し Smart-UPS の場合＞

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択した後に表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面で default.cmd を指定してください。そして次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、“コマンドファイル”を選択した状態で「期間」の値を、「電源異常切断時に実行する登録ジョブ」が完了するまでに必要な時間に設定してください。

#### ＜LCD パネル付き Smart-UPS の場合＞

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウの設定」画面で「コマンドファイルの選択」に default.cmd を指定し、「コマンドファイルを実行するのに必要な時間」の値に、「電源異常切断時に実行する登録ジョブ」が完了するまでに必要な時間を設定してください。

- (6) ESMPro/AutomaticRunningController において、「停電時のクラスタシャットダウン」を有効にする場合には、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」からの設定が必要となります。

#### ＜LCD パネル無し Smart-UPS の場合＞

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択した後に表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面で default.cmd を指定してください。そして次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、“コマンドファイル”を選択した状態で「期間」の値を、「停電時のクラスタシャットダウン」のタイムアウト時間以上の値に設定してください。

#### ＜LCD パネル付き Smart-UPS の場合＞

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウの設定」画面で「コマンドファイルの選択」に default.cmd を指定し、「コマンドファイルを実行するのに必要な時間」に、「停電時のクラスタシャットダウン」のタイムアウト時間以上の値に設定してください。

- (7) PowerChute Business Edition の再インストールを行った場合は、PowerChute Business Edition の「コンソール」において、上記内容を再設定する必要があります。
- (8) PowerChute Business Edition の使用方法につきましては、PowerChute Business Edition に付属のマニュアルを参照してください。

- (9) Windows Vista Business x64 環境にて「ESMPRO/AC 環境ウィザード」による ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition)連携設定を行う場合、「環境設定ウィザード STEP2」の画面において SNMP サービスとの通信が失敗する場合があります。この現象が発生した場合は、環境ウィザードを終了して下記対処を実施後に再度環境ウィザードによる連携設定を行ってください。

(対処)

1. エクスプローラにて ESMPRO/AC インストールフォルダ配下の“DATA”フォルダに移動。
2. 『AC\_PCBE.cfg』ファイルをメモ帳等のテキストエディタで開く。
3. [SNMP]セクションの host の値を自サーバの IP アドレスに変更し、上書き保存。

【例】

[SNMP]

host=172.16.1.17

## 5.4 通信ポート番号関連

使用するポート番号は、以下の通りです。

[ESMPRO/AutomaticRunningController]

(クラスタシステムの時に使用)

[クラスタサーバ] [クラスタサーバ]

不定/udp--->4000/udp

4000/udp <---不定/udp

(Client 監視機能を実行時、使用)

[サーバ] [クライアント]

3999/udp <---不定/udp

3999/udp --->3998/udp

[ESMPRO/AC Enterprise]

(AC Management Console機能を使用した SNMP カードを使用するマルチサーバ構成)

[制御端末 (マスタ)] [制御端末 (マスタの控え)]

不定/udp--->6000/udp

6000/udp <---不定/udp

[制御端末] [連動端末]

不定/udp--->6000/udp

6000/udp <---不定/udp

[制御端末] [UPS]

不定/udp<-->161/snmp

[AC Management Console] [制御/連動端末]

不定/udp--->6000/udp

不定/udp<---不定/udp

(iStorage S/D/M シリーズ連携機能使用時)

[制御端末] [iStorage S/D/M シリーズ]

不定/tcp <--> 6001/tcp

(VMware ESXi サーバ監視時)

[制御端末]            [VMware ESXi サーバ]

ICMP <--> ICMP

不定/tcp<--> 443/tcp

[ESMPRO/AC Advance]、[ESMPRO/AC Blade 管理オプション]

[制御端末 (マスタ) ]    [制御端末 (マスタの控え) ]

不定/udp--->4005/udp

[制御端末]            [連動端末]

不定/udp--->4005/udp

[AC Management Console/AC GUI]    [制御/連動端末]

不定/udp--->4005/udp

## 5.5 共有フォルダ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController では、ネットワーク機能を提供するために、以下の共有フォルダを設定しています。

フォルダ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールフォルダ)¥DATA	ARCDATA	Administrators フルコントロール

「ARCDATA」の共有フォルダは、GUI をサーバ以外からリモートで行う場合に使用します。サーバ上でのみ GUI を使用する場合には、この共有を解除しても問題ありません。

フォルダ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールフォルダ)¥CMSETUP	CMSETUP	Administrators フルコントロール

「CMSETUP」の共有フォルダは、LAN 投入・切断監視に Client 監視機能を使用する場合に、クライアントをセットアップするために使用します。Client 監視機能を使用しない場合には、この共有を解除しても問題ありません。

サーバの OS が Windows XP の場合、セキュリティの設定により他サーバからのネットワーク接続が不可となってしまうことがあります。その際には、[フォルダオプション] の [表示] にある [簡易ファイルの共有を使用する (推奨)] チェックを無効にして、簡易ファイルの共有インターフェイスを無効にする必要があります。これは Windows XP の制限事項になります。

## 5.6 AC-LINK 関連

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK を「Power ON」にしておいてください。BIOS の設定変更の方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

## 第 6 章 障害発生時には

障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

- ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
- ESMPRO/AC マルチサーバオブションログ (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)
- イベントログ
- ESMPRO/UPSManager のログ (Smart-UPS シリアル制御の場合のみ)
- PowerChute Business Edition のログ (ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition セット)による自動運転を行なっている場合)
- バージョン情報
- SNMP カードからの情報採取 (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)
- Collect ログおよび IPMI ログ

### 6.1 ESMPRO/AutomaticRunningController ログ

#### (1) サーバのログ採取方法

##### ■ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

サービスおよび GUI の動作不良のため、ESMPRO/AC GUI からの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■手動によるログ採取方法」を参照してください。

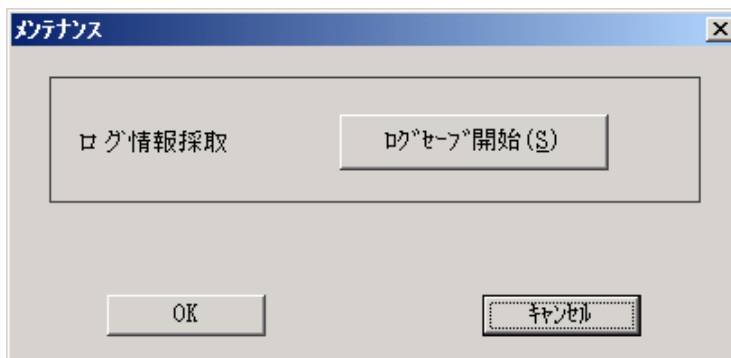
①ESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。



②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINT

と入力し、OK ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。

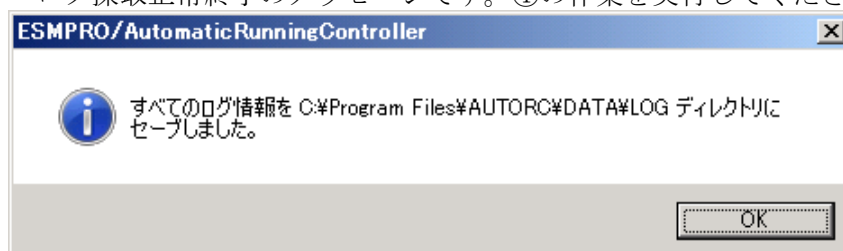




- ③「ログセーブ開始(S)」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

#### ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。④の作業を実行してください。



#### ログ採取異常終了メッセージ



上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG 下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、再度①からの操作をやり直してください。

- ④採取されたログのファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG 下に置かれます。

エクスプローラ等により、DATA\LOG ディレクトリごと USB メモリ 等の外部記憶媒体に採取してください。DATA\LOG 下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。

- ・スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

#### ■手動によるログ採取方法

- ①エクスプローラ等を使用してください。
- ②ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ\data ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。

#### (2) Client 監視を行っているクライアントのログ採取方法

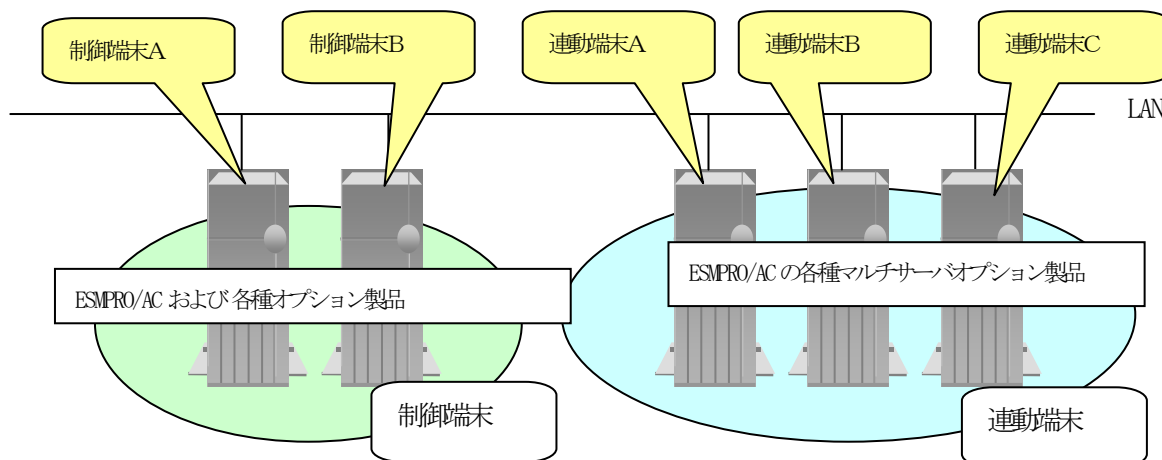
Client 監視で不具合が発生した場合は、(1)のログの他に Client 監視機能をセットアップした Client 側のコンピュータから Client 監視機能インストールディレクトリ (規定値:CMODULE) 下の下記情報ファイルを USB メモリ 等の外部記憶媒体に採取してください。

ACNETSVR.LOG  
ACNETSV.APC  
CLIENTD.APC  
ONJOB0.APC  
:  
ONJOB7.APC

連動サーバ数によってファイル数が異なります。

## 6.2 ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。



### (1) 連動端末 (Windows サーバ) のログ採取方法

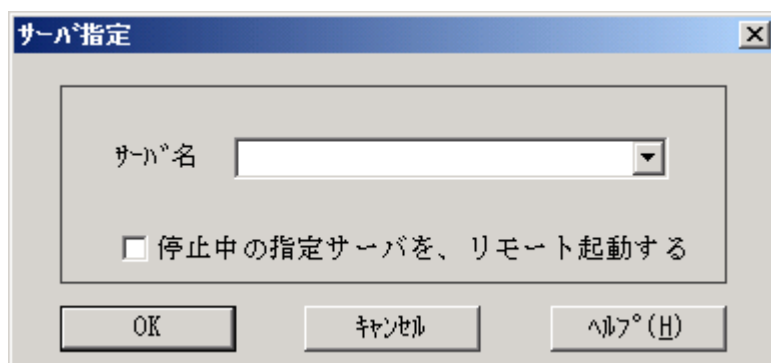
#### ■ ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

サービスおよび GUI の動作不良のため、ESMPRO/AC GUI からの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■ 手動によるログ採取方法」を参照してください。

制御端末または管理 GUI がインストールされているコンピュータの ESMPRO/AC GUI を使用し、下記手順で、連動端末A、B、Cのそれぞれのログを採取してください。

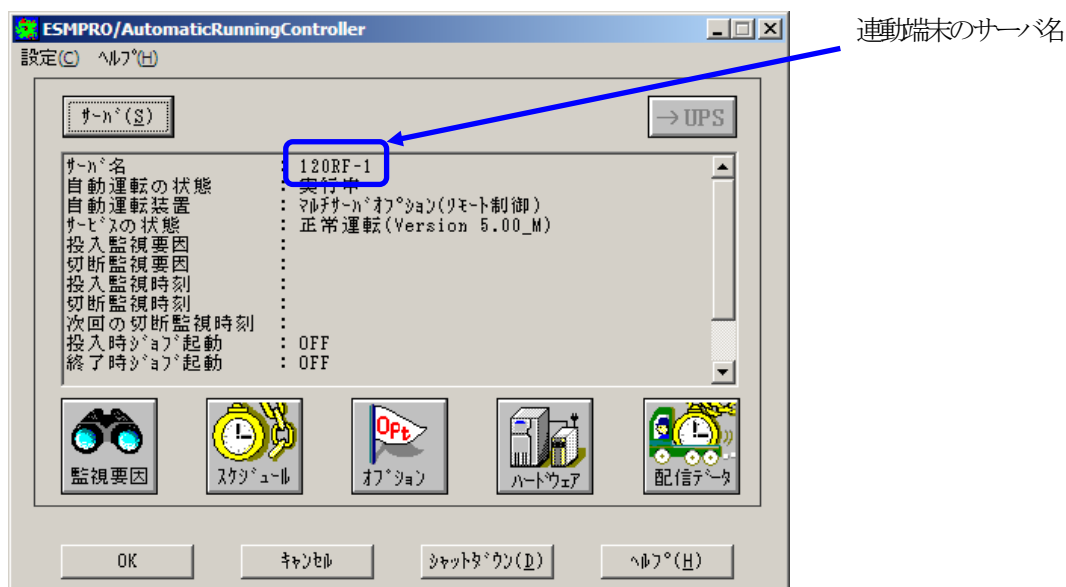
例えば、制御端末Aから連動端末Aのログを採取する場合

- ① 制御端末の ESMPRO/AC メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。



- ②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、連動端末Aのサーバ名を入力し、「OK」ボタンを選択して、連動端末Aに接続します。

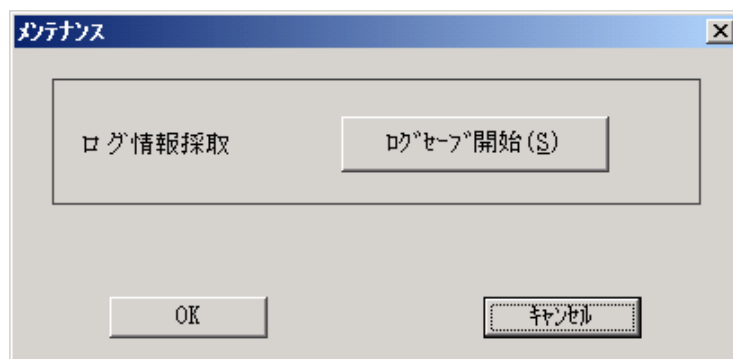
例えば、連動端末のサーバ名が、120RF-1 の場合、上記サーバ指定で  
120RF-1  
と入力します。接続しましたら下記のように表示されます。



- ③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。



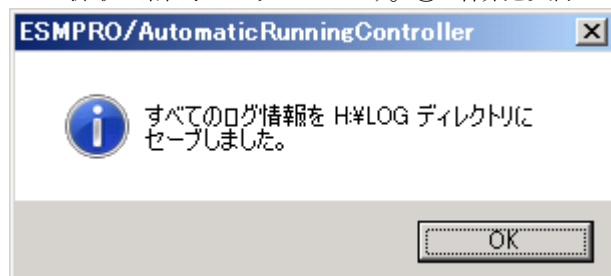
- ④サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、  
ESM/PC MAINTENANCE  
と入力し、「OK」ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。



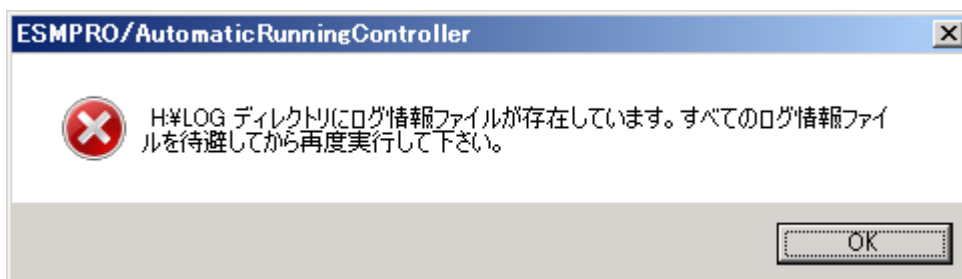
- ⑤「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

#### ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。⑥の作業を実行してください。

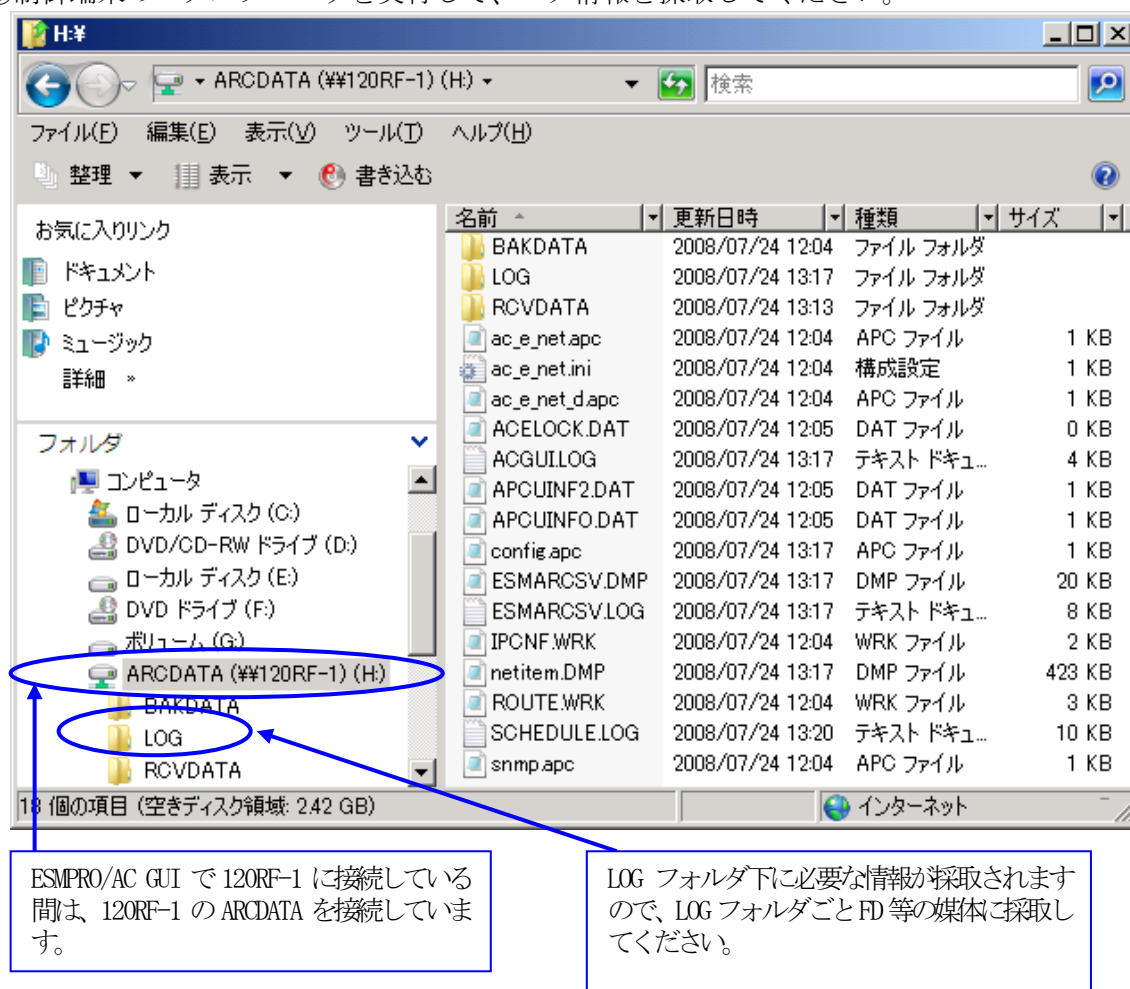


#### ログ採取異常終了メッセージ



上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した連動端末の ESMPRO/AC インストールフォルダ¥DATA¥LOG にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑥制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。



※LOG フォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

#### ■手動によるログ採取方法

- ①エクスプローラ等を使用してください。
  - ②連動端末の ESM PRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのインストールフォルダ¥data のすべてのファイルを採取してください。
- ※ネットワークが不調な場合などは、連動端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

## 6.3 イベントログ

◆Windows 2000/Windows XP/Windows Server 2003 の場合

- ① [管理ツール] からイベントビューアを起動します。
- ② ツリーでアプリケーションログを表示させ、【操作】を指定し、【ログファイルの名前を付けて保存】を選択します。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存ボタン」を選択してください。ログがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- ⑤ 同様に、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

◆Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008/Windows 7/Windows Vista の場合

- ① [管理ツール]からイベントビューアを起動します。
- ② [Windows ログ]のツリーでアプリケーションログを表示させ、【操作】を指定し、【イベントに名前を付けて保存】を選択します。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- ⑤ 同様に、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

◆Windows Server 2012 R2/Windows Server 2012/Windows 8 の場合

- ① [管理ツール]からイベントビューアを起動します。
- ② [Windows ログ]のツリーで Application ログを表示させ、【操作】を指定し、【すべてのイベントに名前を付けて保存】を選択します。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- ⑤ 同様に、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

## 6.4 クラスタシステムのログ採取

クラスタシステム構成で障害が発生した場合は、クラスタを構成するすべてのサーバで障害情報を採取してください。その場合、現用系、待機系の区別を明記しておいてください。

※CLUSTERPRO 製品と ESMPRO/AC 製品を連携して運用している場合、CLUSTERPRO のログ採取機能を使用して、ESMPRO/AC のログを採取することができます。

## 6.5 ESMPRO/UPSManager のログ採取

ESMPRO/AutomaticRunningController での障害の際に、自動運転に関する障害で Smart-UPS が原因と思われる障害が発生した場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController で採取する情報以外に UPS 関連のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

UPS 関連ログ情報の採取方法につきましては、ESMPRO/UPSManager の資料を参照ください。

## 6.6 PowerChute Business Edition のログ採取

ESMPRO/AC での障害の際に、ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition セット)による自動運転を行なっている場合は、ESMPRO/AC で採取する情報以外に PowerChute Business Edition のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

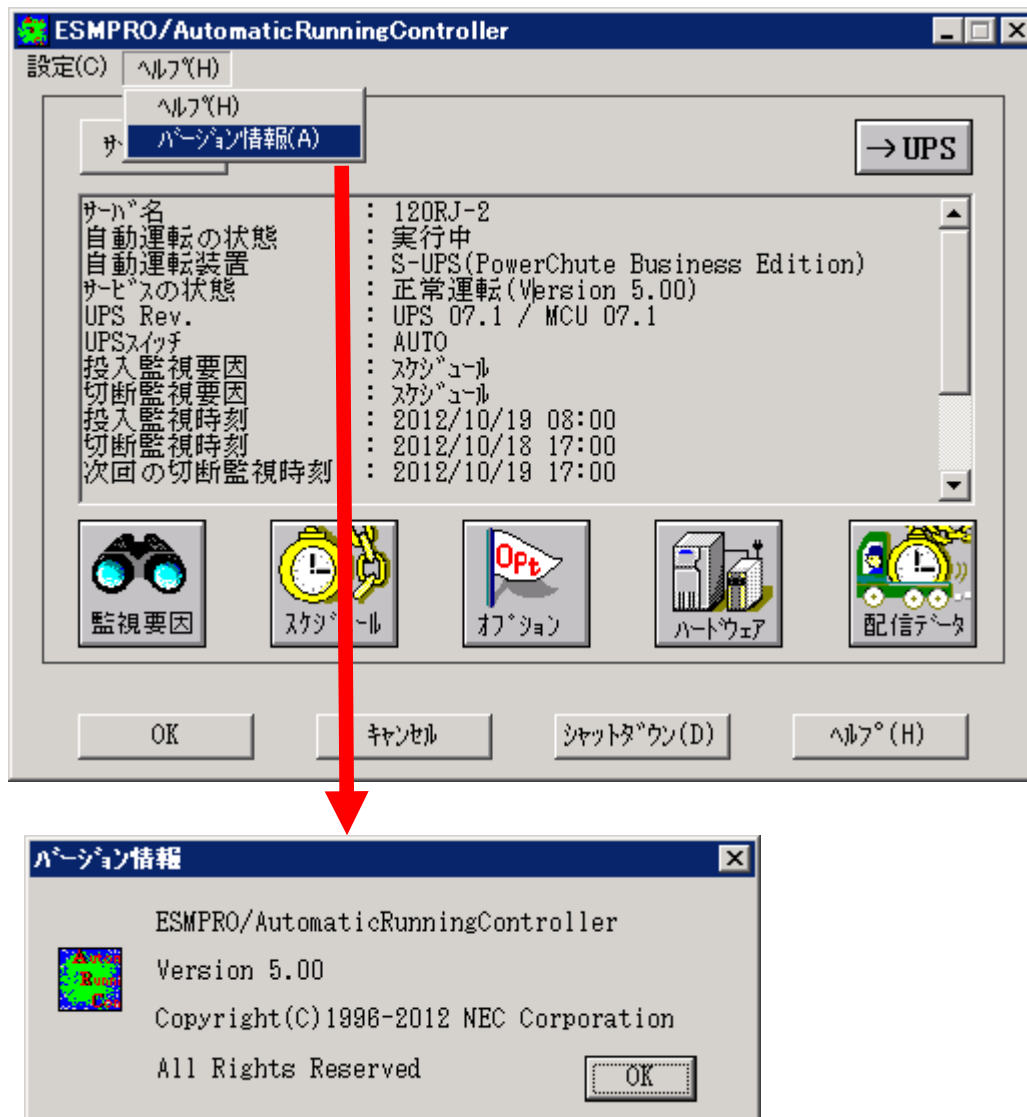
PowerChute Business Edition のログ情報の採取方法につきましては、PowerChute Business Edition の資料を参照ください。

## 6.7 バージョン情報

障害発生時はログ以外に、アプリケーションのバージョン情報が必要です。

ESMPRO/AutomaticRunningController のバージョン情報は、以下の手順で取得できます。

- (1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動します。
- (2) メニューバーの「ヘルプ」 → 「バージョン情報」を選択すると、バージョン情報が表示されます。



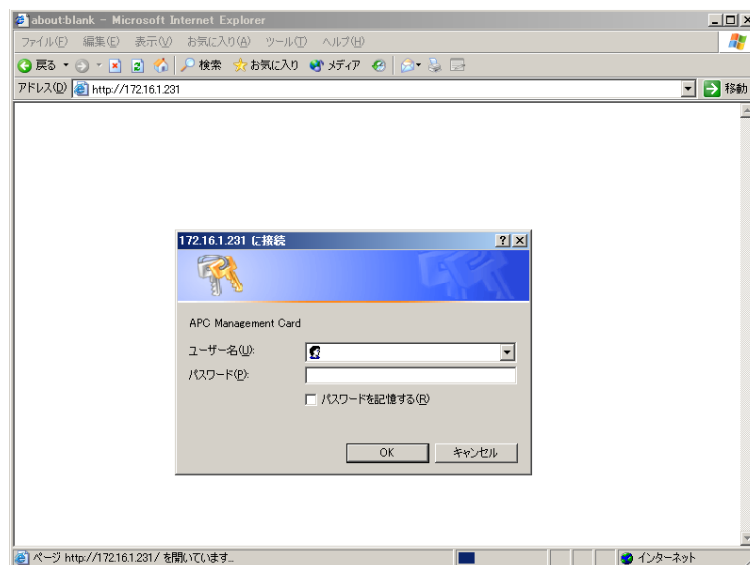
## 6.8 SNMP カードからの情報採取

Smart-UPS を LAN 制御している場合、UPS 毎に下記情報を採取してください。

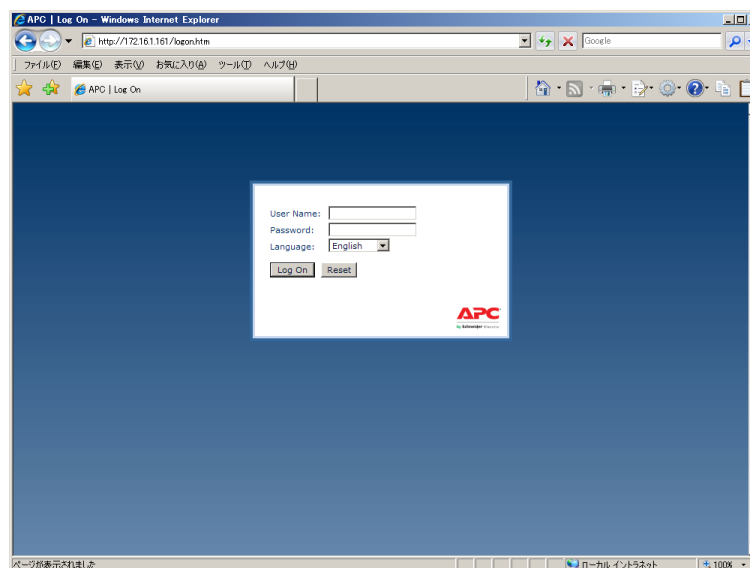
なお、ご使用の Internet Explorer バージョンおよび Internet Explorer の設定によっては、ファイルに保存する手順が一部異なる場合があります。手順の詳細はご使用の Internet Explorer のバージョンおよびヘルプ等をご確認ください。

- (A) のログイン画面が表示された場合は「6.8.1 SNMP カードの情報 (A)」を参照してください。
- (B) のログイン画面が表示された場合は「6.8.2 SNMP カードの情報 (B)」を参照してください。
- (C) のログイン画面が表示された場合は「6.8.3 SNMP カードの情報 (C)」を参照してください。

(A)

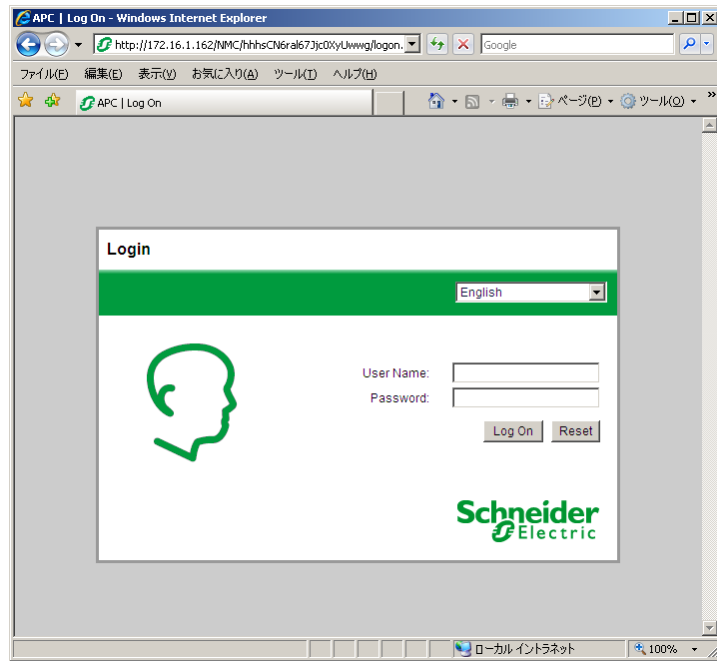


(B)





(C)



### 6.8.1 SNMPカードの情報 (A)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ情報
- ④Access Control情報

#### (1) SNMP カードへの接続方法

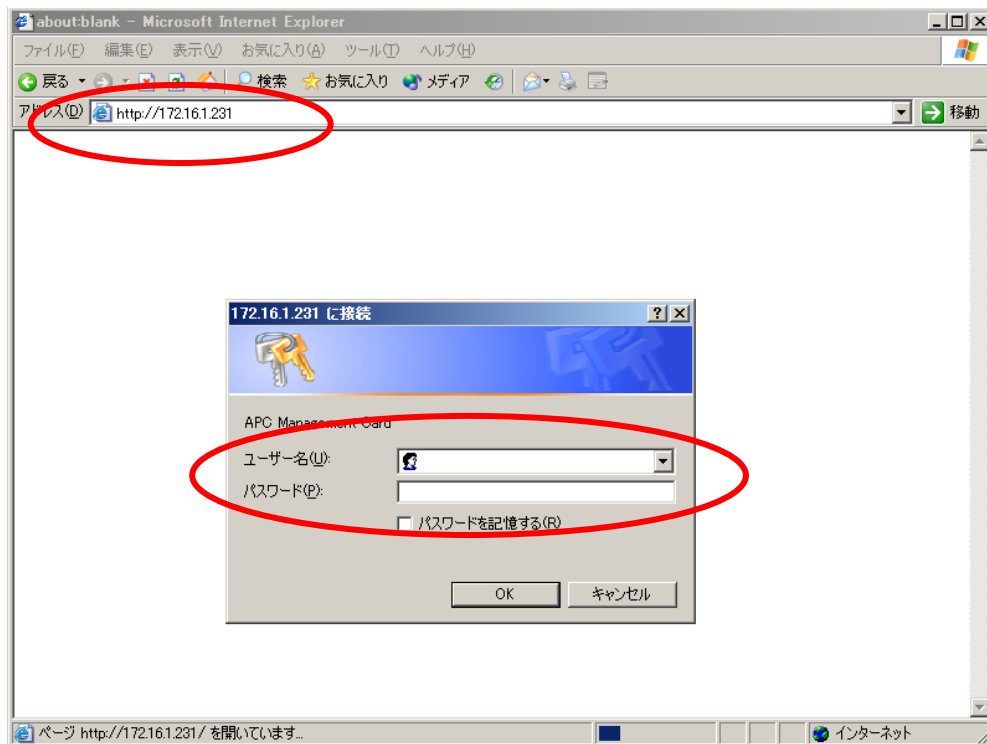
- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します。

下記のようにSNMPカードのIP Addressを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。

(ログを採取するSNMPカードのIP Addressが172.16.1.231の場合)

<http://172.16.1.231>

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

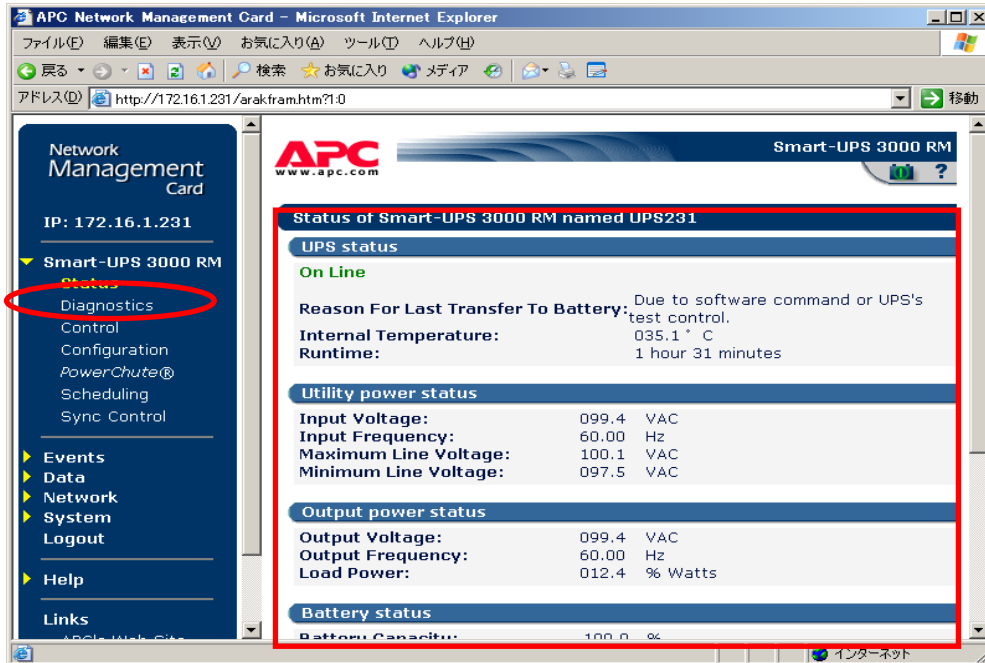


## (2) 情報の採取方法

### ①ステータス情報

左側のメニューで「Smart-UPSXXX」を選択し、「Status」を選択します。

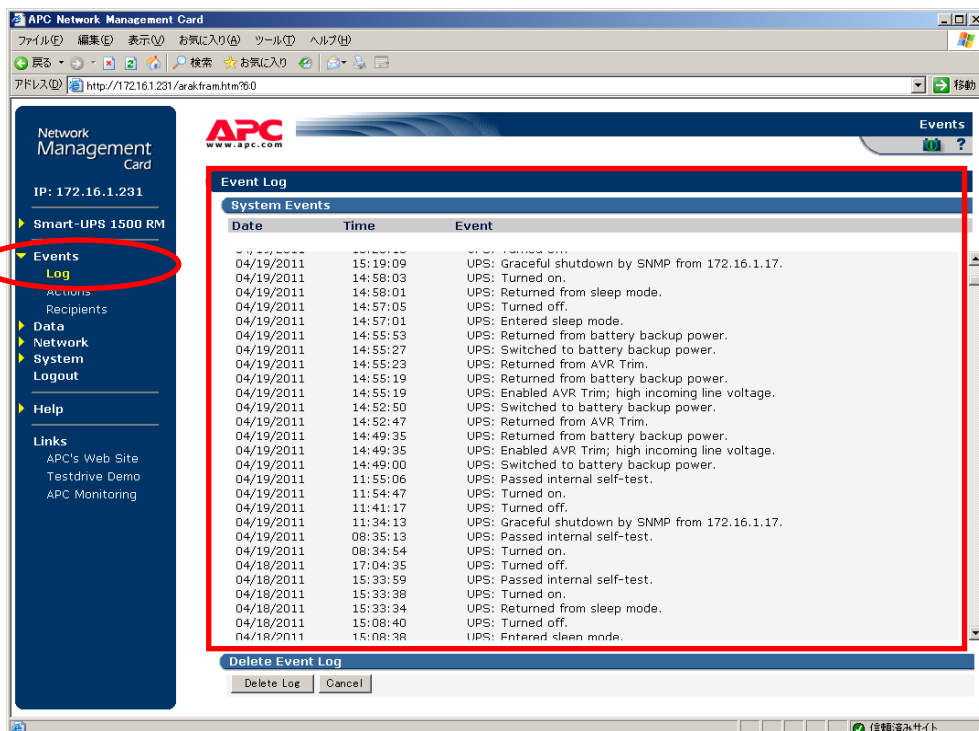
下記 Status 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。



### ②イベントログ情報

左側のメニューで「Events」を選択し、「Log」を選択します。

下記 Event Log 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。



### ③データログ情報

左側のメニューで「Data」を選択し、「Log」を選択します。

下記 Data Log 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。

APC Network Management Card - Microsoft Internet Explorer

IP: 172.16.1.231

Smart-UPS 1500 RM

Data Log

Device Data

Date	Time	Vmin	Vmax	Vout	%Wout	Freq	%Cap	Vbat	TupsC
04/25/2011	14:18:15	104.4	105.1	105.1	16.9	60.00	100.0	27.40	33.3
04/25/2011	14:08:15	104.4	105.8	105.1	16.2	60.00	100.0	27.40	33.3
04/25/2011	13:58:15	104.4	105.1	105.1	16.9	60.00	100.0	27.40	33.3
04/25/2011	13:48:15	104.4	105.8	105.1	16.9	60.25	100.0	27.40	32.8
04/25/2011	13:38:15	103.6	105.8	105.8	19.5	60.00	100.0	27.27	32.8
04/25/2011	13:28:15	103.6	104.4	104.4	16.9	60.00	100.0	27.40	32.4
04/25/2011	13:18:15	0.0	105.1	104.4	19.5	60.00	93.0	27.40	31.0
04/25/2011	13:08:15	0.0	105.1	99.6	6.5	60.00	90.0	24.84	32.4
04/25/2011	12:58:15	103.6	105.8	95.7	16.2	60.00	100.0	27.27	33.7
04/25/2011	12:48:15	103.6	105.1	95.0	16.9	60.00	100.0	27.27	33.7
04/25/2011	12:38:15	105.1	105.8	95.7	16.2	60.00	100.0	27.27	33.7
04/25/2011	12:28:15	104.4	105.8	96.4	16.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	12:18:15	104.4	105.8	95.7	16.2	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	12:08:15	104.4	105.8	95.7	16.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	11:58:15	104.4	107.2	96.4	16.2	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	11:48:15	104.4	107.2	95.7	17.5	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	11:38:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	11:28:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	11:18:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.13	34.2
04/25/2011	11:08:14	105.1	106.5	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	10:58:14	105.8	106.5	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	10:48:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	34.2
04/25/2011	10:38:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	33.7
04/25/2011	10:28:14	105.1	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.27	33.3
04/25/2011	10:18:14	104.4	107.2	0.0	3.9	60.00	100.0	27.40	33.3
04/25/2011	10:08:14	105.8	107.2	0.0	3.9	60.25	100.0	27.40	33.3
04/25/2011	09:58:14	105.1	106.5	0.0	3.9	60.00	100.0	27.40	33.3

Delete Log Cancel

### ④Access Control情報

左側のメニューで「NetWork」を選択し、「SNMP」を選択します。

下記 Access Control 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。

APC Network Management Card - Microsoft Internet Explorer

IP: 172.16.1.231

Smart-UPS 3000 RM

Network

SNMP

Access: Enabled

Apply Cancel

Access Control

Community Name	NMS IP/Domain Name	Access Type
public	172.16.1.1	Write+
public	0.0.0.0	Disabled
public	0.0.0.0	Disabled
public	0.0.0.0	Disabled

Apply Cancel

Configure the SNMP trap receivers.

## 6.8.2 SNMPカードの情報 (B)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ
- ④access control情報

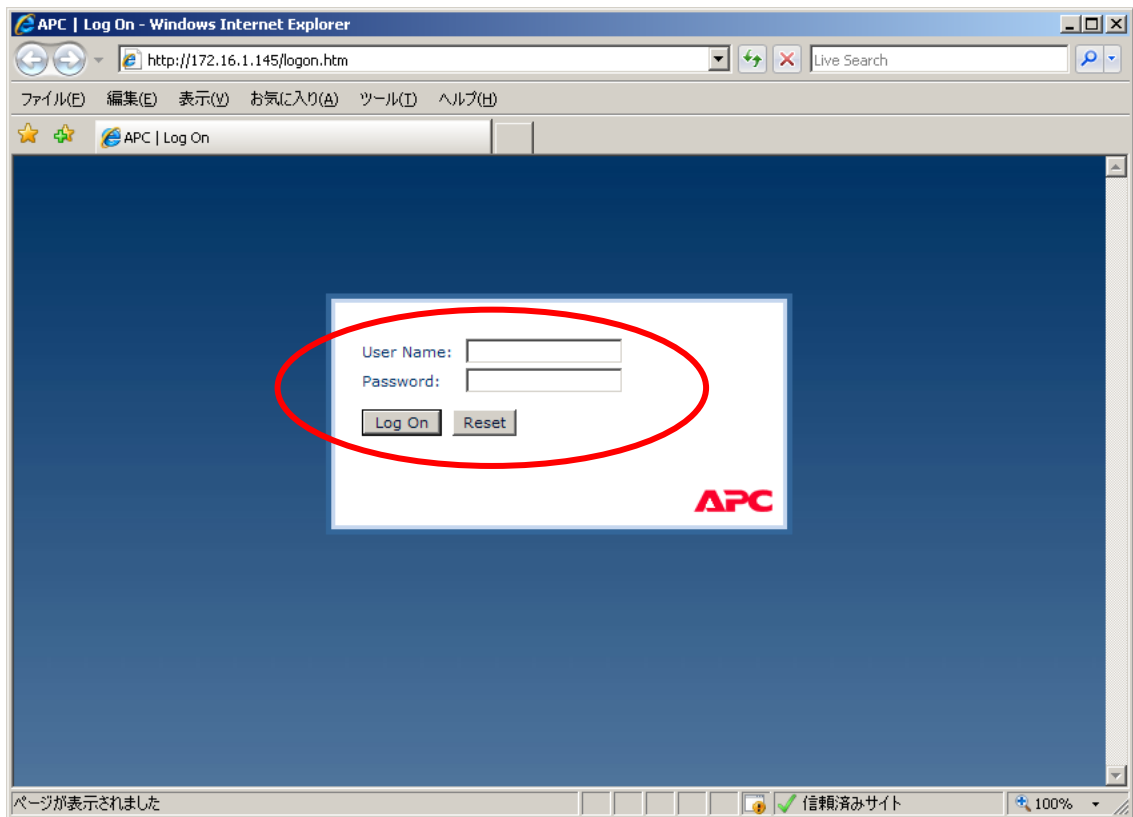
### (1) SNMP カードへの接続方法

- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIP addressを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。(ログを採取するSNMPカードのIP addressが172.16.1.145の場合)

<http://172.16.1.145>

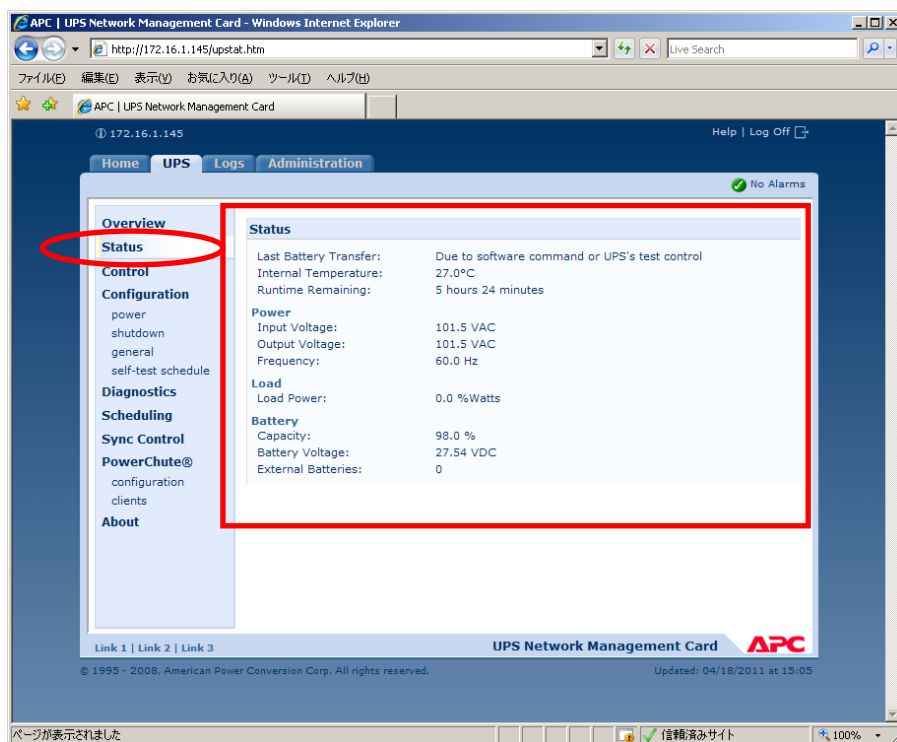
ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。



## (2) 情報の採取方法

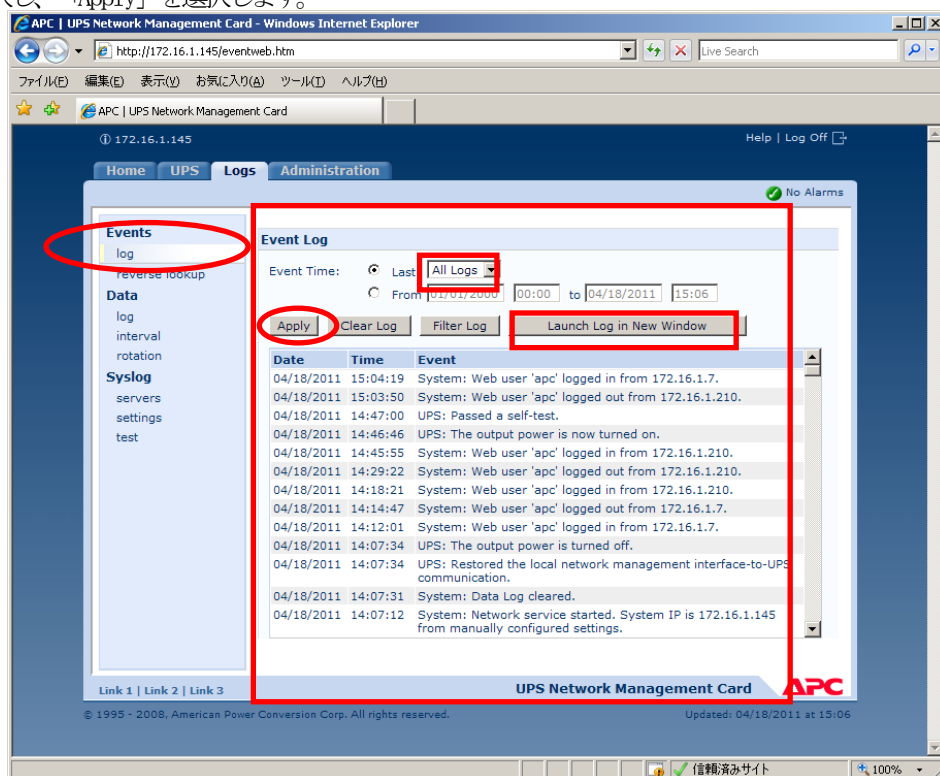
### ①ステータス情報

「UPS」タブを選択し、「Status」または「Detailed Status-> measurements」を選択します。  
下記 Status 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。

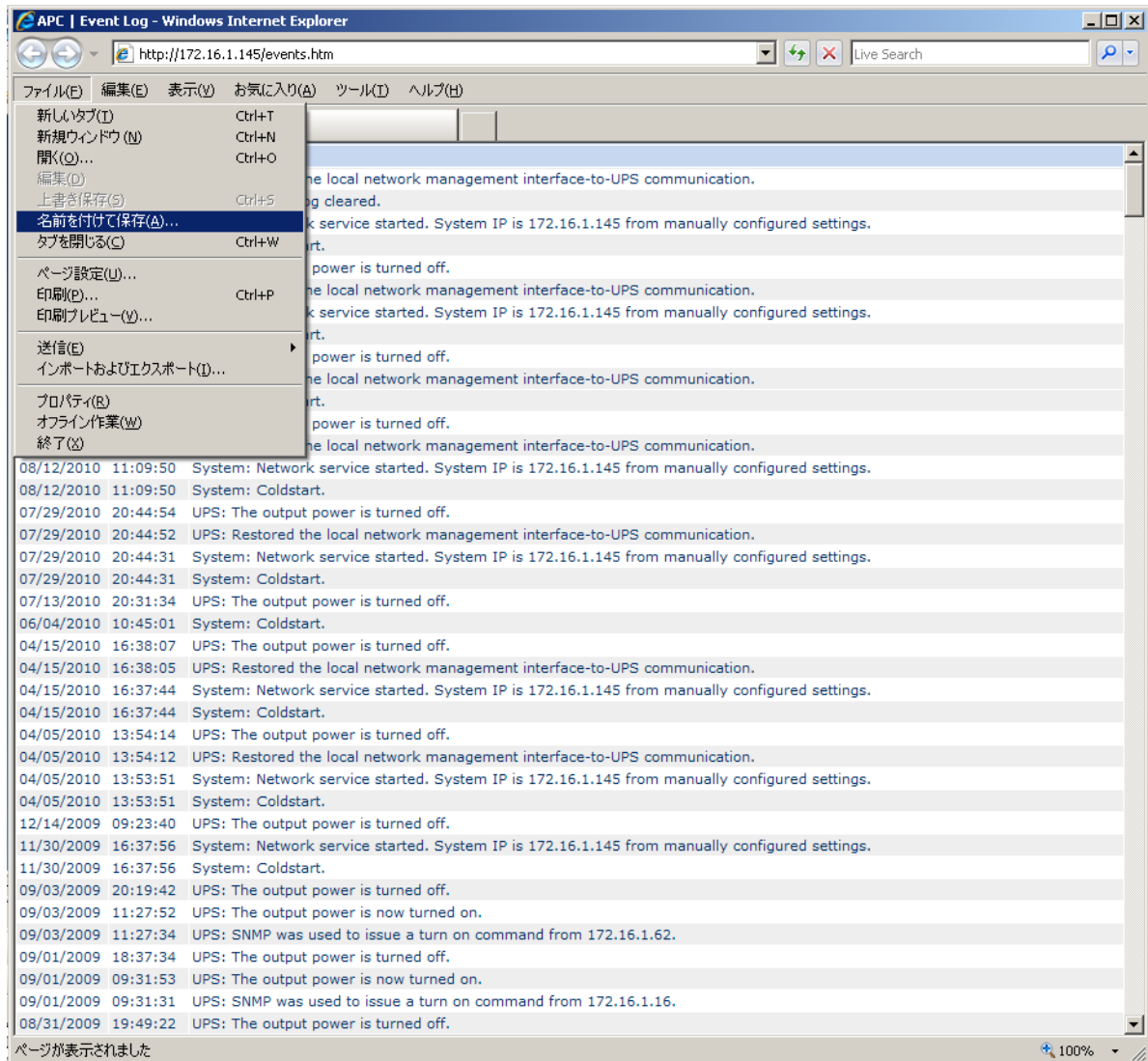


### ②イベントログ情報

「Logs」タブを選択し、「Events -> log」を選択します。  
Event logが表示されますので、Event log Filtering 画面の「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。



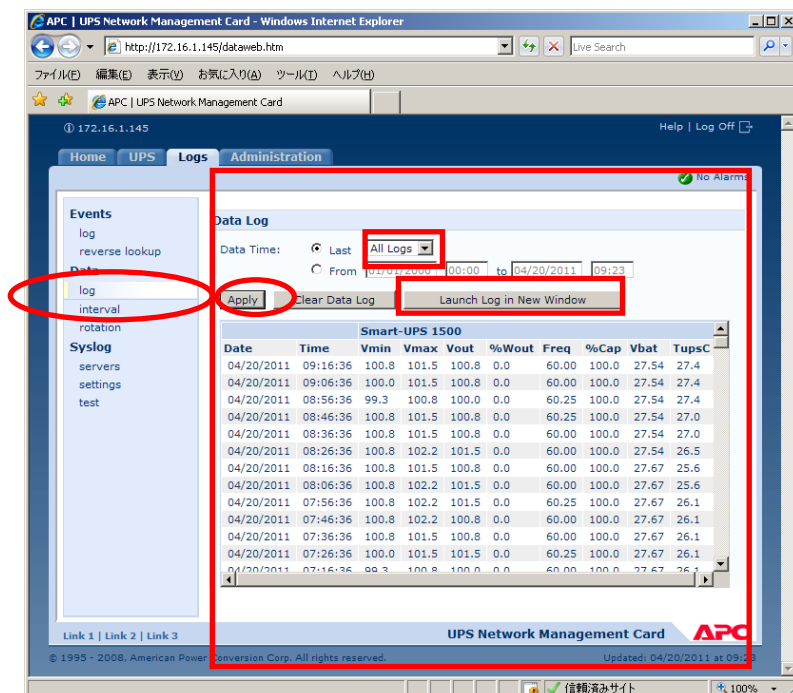
「Launch Log in New Window」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht) 」形式または「Web ページ、完全 (\*.htm, \*.html) 」形式を指定して保存してください。



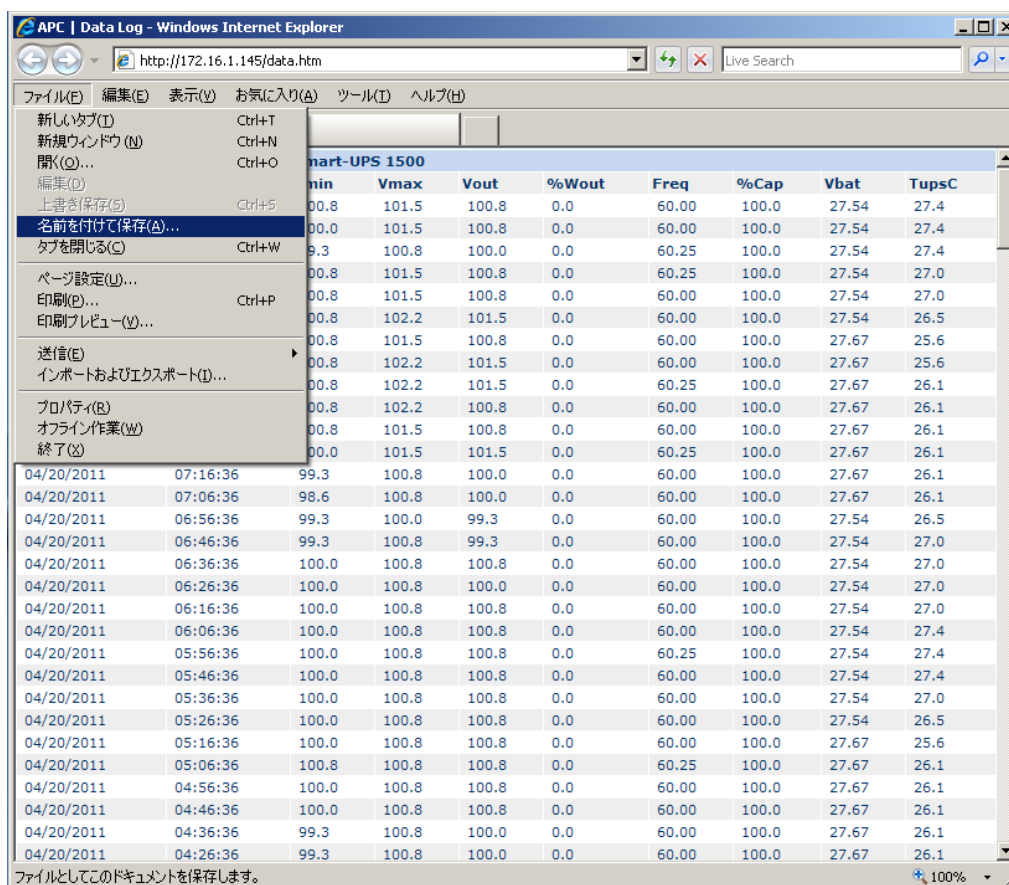
### ③ データログ情報

「Logs」タブを選択し、「Data -> log」を選択します。

Data log が表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。



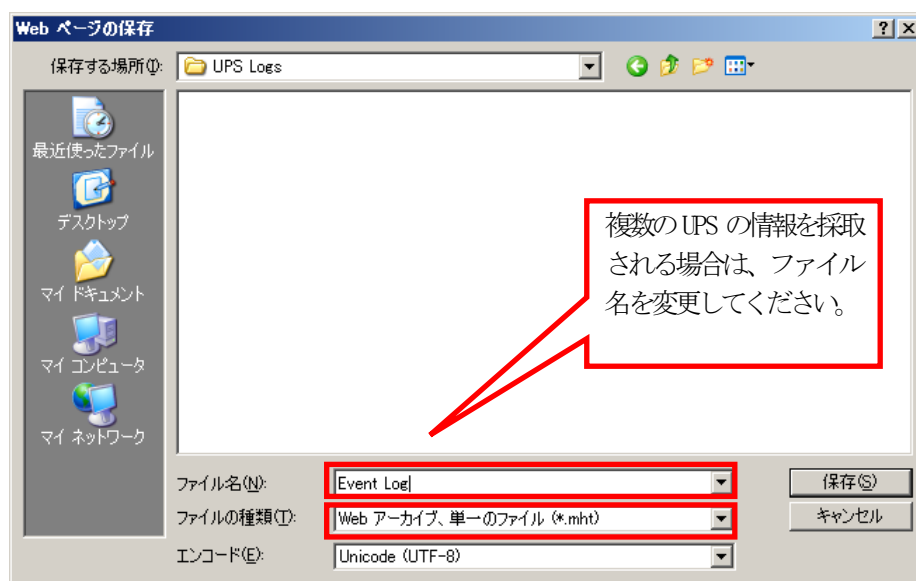
「Launch Log in New Window」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (\*.htm, \*.html)」形式を指定して保存してください。





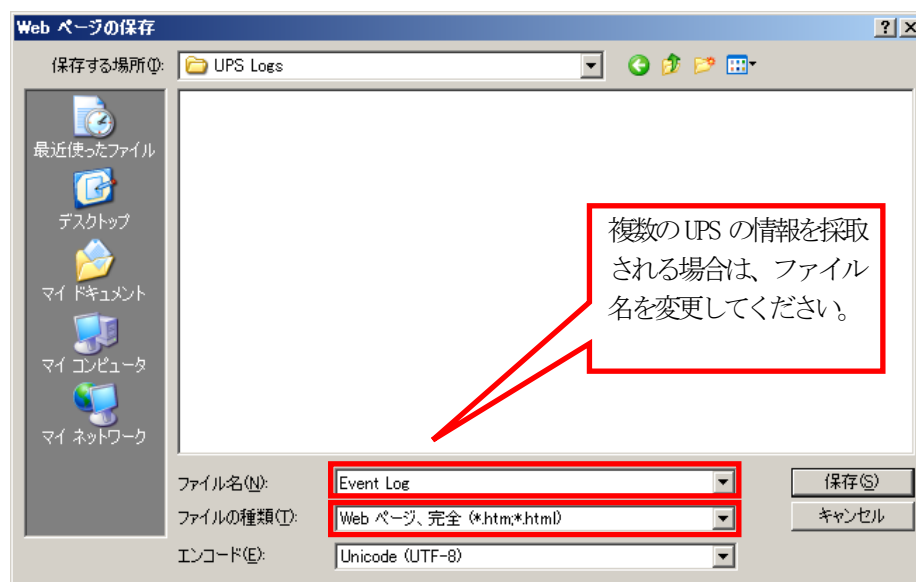
※②Logs -> Events -> log、③Logs -> Data -> log とともに、以下の方法で採取してください。

(保存方法その1)



「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht)」形式で保存する場合は、保存されるファイルが\*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

(保存方法その2)



「Web ページ、完全 (\*.htm;\*.html)」形式で保存する場合は、htmファイルとEvent Log\_files\_という名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

#### ④access control情報

「Administration」タブを選択し、「Network」→「access control」を選択します。

下記Access Control 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。

The screenshot shows the APC UPS Network Management Card web interface in a Windows Internet Explorer browser. The address bar shows the URL <http://172.16.1.145/snmpacc.htm>. The interface has a navigation menu on the left with categories like TCP/IP, DNS, Web, Console, SNMPv1, SNMPv3, FTP Server, and WAP. The 'access control' option under the SNMPv3 category is circled in red. The main content area displays the 'Access Control' configuration table, which is also outlined with a red border. The table lists four entries with their respective community names, NMS IP/Host names, and access types.

Community Name	NMS IP/Host Name	Access Type
public	172.16.1.21	Write +
public	172.16.1.16	Write +
public	172.16.1.22	Disabled
public	172.16.1.66	Disabled

### 6. 8. 3 SNMP カードの情報 (C)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ
- ④access control情報

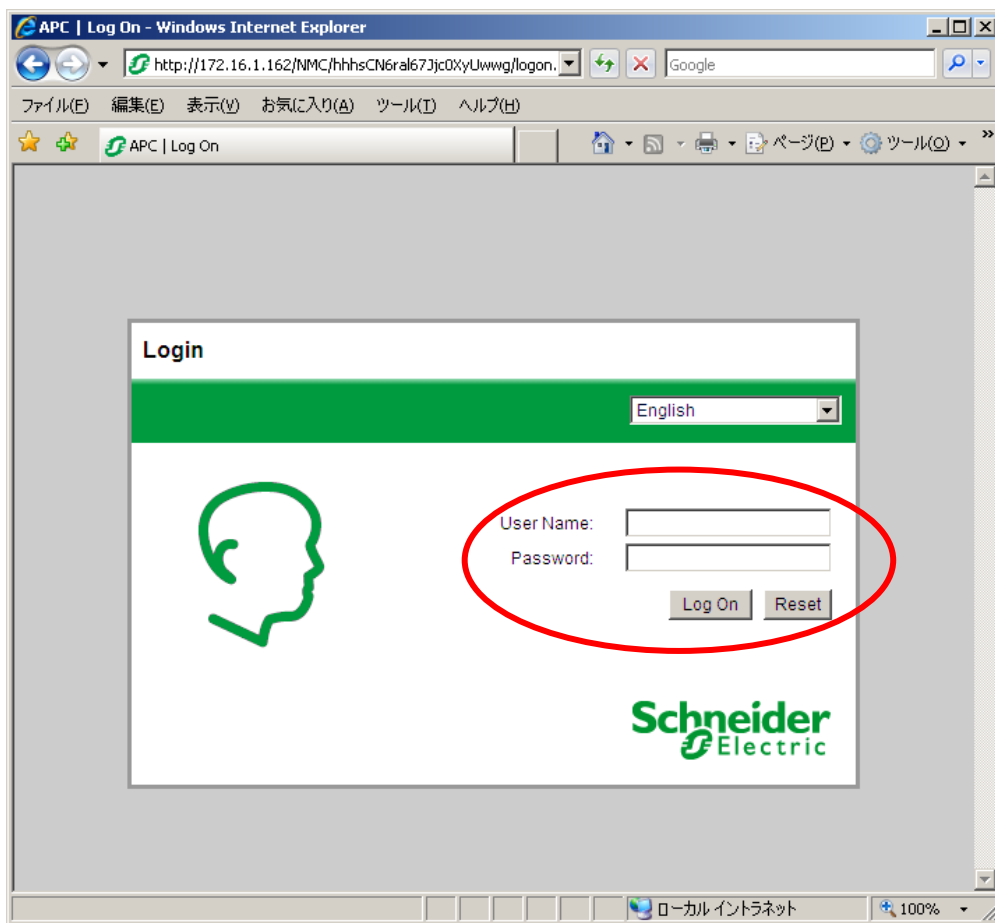
#### (1) SNMP カードへの接続方法

- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIP addressを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。（ログを採取するSNMPカードのIP addressが172.16.1.162の場合）

<http://172.16.1.162>

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。



## (2) 情報の採取方法

### ①ステータス情報

「Status」メニューから「UPS」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、情報をファイルに保存してください。

The screenshot shows the web interface of an APC UPS Network Management Card 2. The browser window title is "APC | UPS Network Management Card 2 - Windows Internet Explorer". The address bar shows the URL "http://172.16.1.162/NMC/8D9RgOW+yN6jyIHGkpB1g/ulstat.htm". The page header includes the Schneider Electric logo and the text "UPS Network Management Card 2 Smart-UPS/Matrix Application". A navigation bar at the top contains links: Home, Status, Control, Configuration, Tests, Logs, and About. The main content area is titled "Status Smart-UPS X 3000" and contains the following information:

Last Battery Transfer:		Detection of distorted input
Internal Temperature:		27.8°C
Runtime Remaining:		2hr 23min 16sec
<b>UPS Input</b>		
Input Voltage:	100.3 VAC	@ 60.0 Hz
<b>UPS Output</b>		
Output Voltage:	100.3 VAC	@ 60.0 Hz
Load Current:	6.2 Amps	
Output VA:	25.8 %	
Output Watts:	25.3 %	
Output Efficiency:	94.5 %	
Output Energy Usage:	291.26 kWh	
<b>Battery Status</b>		
Battery Capacity:	100.0 %	
Battery Voltage:	135.8 VDC	
Num of External Batteries:	1	
Replace Battery Date:	08/31/2017	

At the bottom of the page, there is a footer with the text "Knowledge Base | Schneider Electric Product Page | Schneider Electric Downloads" and "© 2012, Schneider Electric. All rights reserved.".

## ②イベントログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Events」→「Log」を選択します。

Event Logが表示されますので、Event Log Filtering 画面の「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

The screenshot shows the APC UPS Network Management Card 2 web interface in Internet Explorer. The browser address bar shows the URL: `http://172.16.1.162/NMC/8199RgOW+yN6jyHGlPB1g/eventweb.htm`. The page title is "APC | UPS Network Management Card 2". The main navigation bar includes links: Home, Status, Control, Configuration, Tests, Logs, and About. The "Logs" link is highlighted.

The "Event Log Filtering" section is visible, showing the "Event Time" filter set to "All Logs" (highlighted with a red box). Below the filter, there are buttons: "Apply" (highlighted with a red circle), "Clear Log", "Filter Log", and "Launch Log in New Window" (highlighted with a red box).

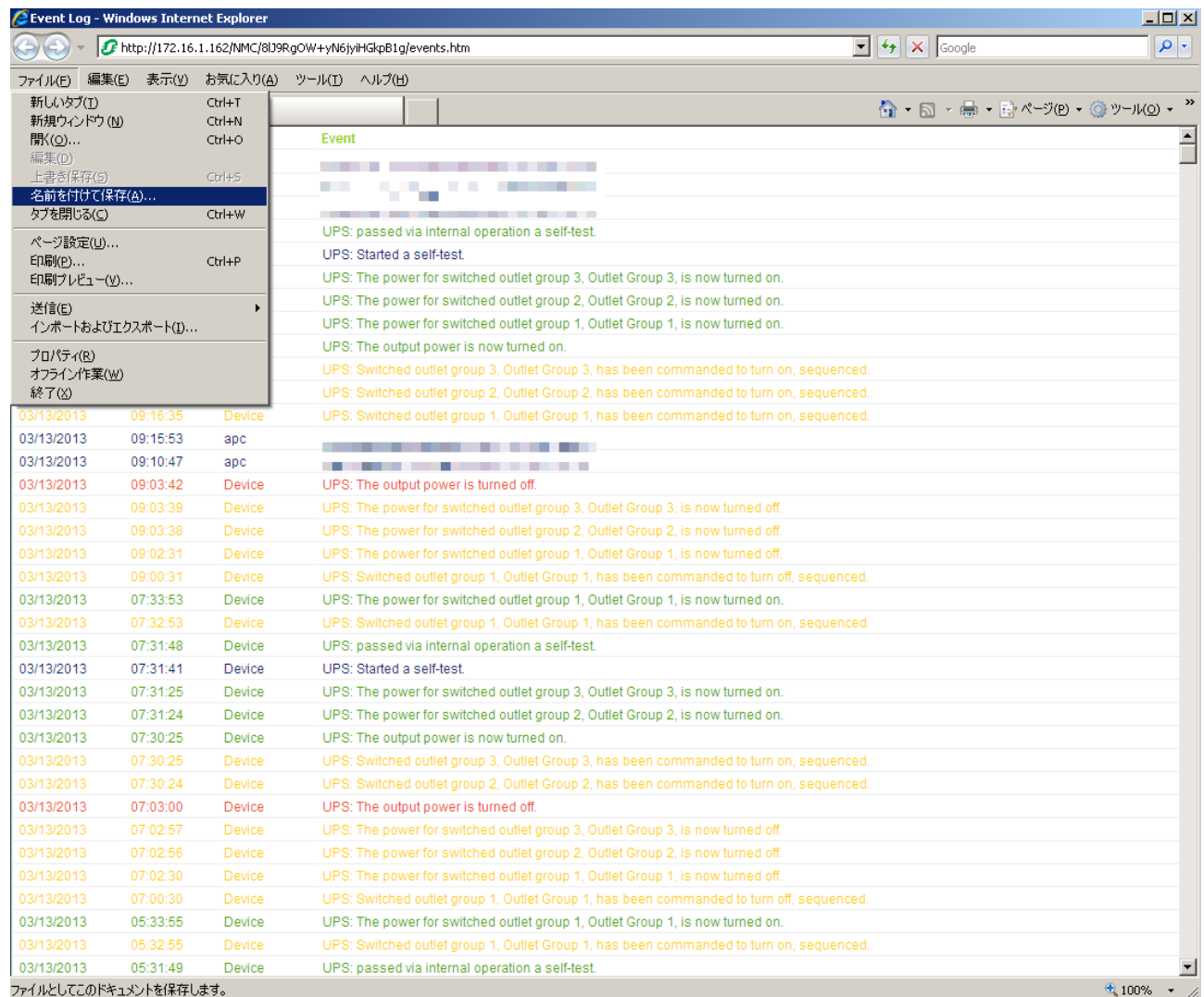
The "Event Log" table displays a list of events. The table has columns: Date, Time, User, and Event. The events are listed in descending order of time.

Date	Time	User	Event
03/13/2013	09:30:47	System	
03/13/2013	09:20:35	apc	
03/13/2013	09:20:27	System	
03/13/2013	09:18:01	Device	UPS: passed via internal operation a self-test.
03/13/2013	09:17:53	Device	UPS: Started a self-test.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 3, Outlet Group 3, is now turned on.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 2, Outlet Group 2, is now turned on.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 1, Outlet Group 1, is now turned on.
03/13/2013	09:16:36	Device	UPS: The output power is now turned on.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 3, Outlet Group 3, has been commanded to turn on, sequenced.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 2, Outlet Group 2, has been commanded to turn on, sequenced.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 1, Outlet Group 1, has been commanded to turn on, sequenced.

At the bottom of the table, there are pagination controls: 1, 2, 3, 4, 5, 6, Next >, >>.

The footer of the page includes: Knowledge Base | Schneider Electric Product Page | Schneider Electric Downloads. © 2012, Schneider Electric. All rights reserved.

「Launch Log in New Window」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (\*.htm, \*.html)」形式を指定して保存してください。



### ③ データログ情報

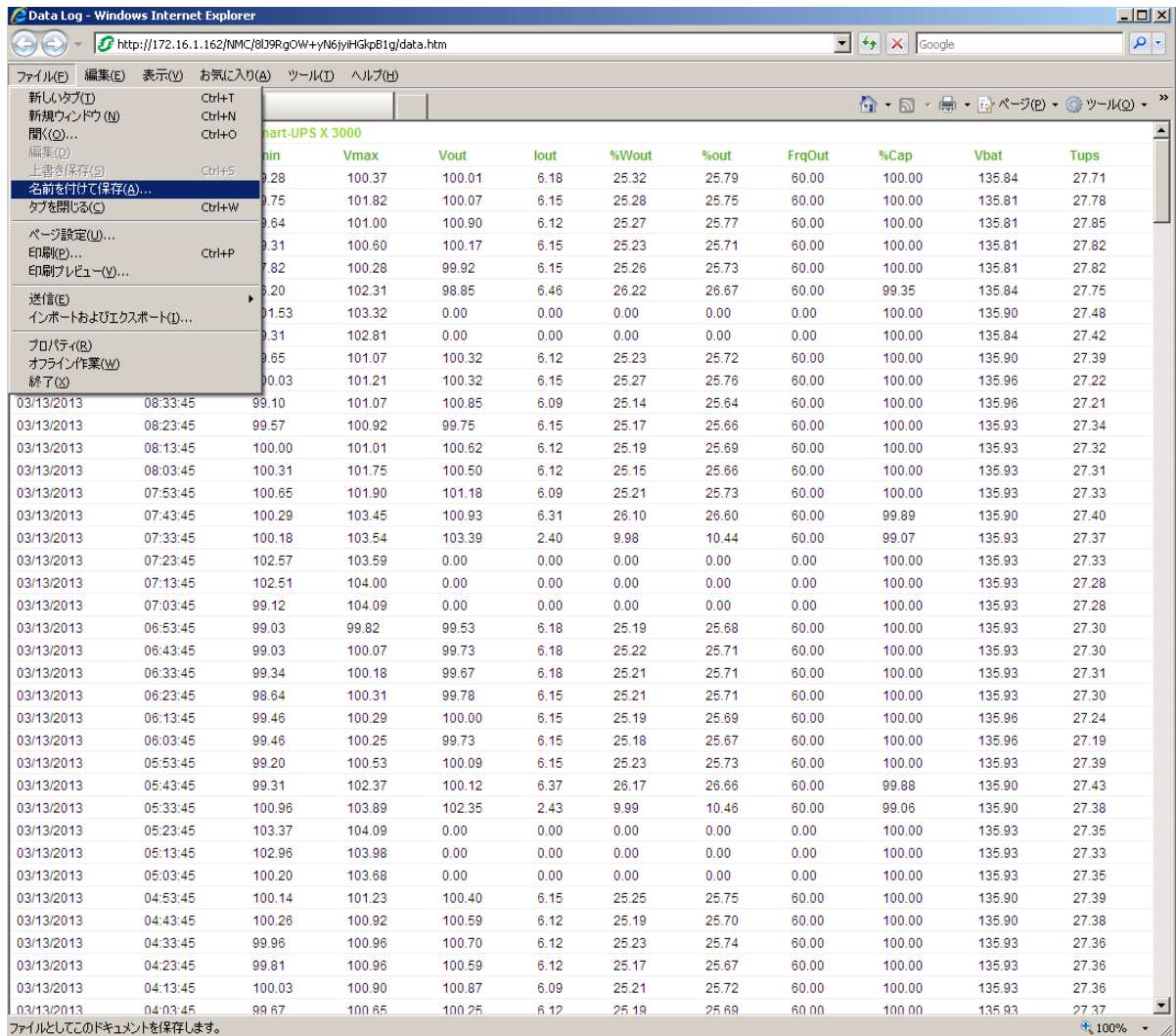
「Logs」メニューを選択し、「Data」→「Log」を選択します。

Data Log が表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

The screenshot shows the Schneider Electric UPS Network Management Card 2 web interface. The 'Logs' menu is selected in the top navigation bar. In the 'Data Log Filtering' section, the 'Data Time' dropdown is set to 'All Logs'. The 'Apply' button is highlighted with a red circle. Below this, the 'Data Log' table is displayed, showing various parameters for the Smart-UPS X 3000. The table is titled 'Smart-UPS X 3000' and contains 12 columns: Date, Time, Vmin, Vmax, Vout, Iout, %Wout, %out, FrqOut, %Cap, Vbat, and Tups. The table lists 15 rows of data for the date 03/13/2013. At the bottom of the table, there are pagination controls showing '1' selected and 'Next >' and '>>' buttons.

Date	Time	Vmin	Vmax	Vout	Iout	%Wout	%out	FrqOut	%Cap	Vbat	Tups
03/13/2013	10:13:46	99.28	100.37	100.01	6.18	25.32	25.79	60.00	100.00	135.84	27.71
03/13/2013	10:03:46	99.75	101.82	100.07	6.15	25.28	25.75	60.00	100.00	135.81	27.78
03/13/2013	09:53:46	99.64	101.00	100.90	6.12	25.27	25.77	60.00	100.00	135.81	27.85
03/13/2013	09:43:46	99.31	100.60	100.17	6.15	25.23	25.71	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	09:33:45	97.82	100.28	99.92	6.15	25.26	25.73	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	09:23:45	96.20	102.31	98.85	6.46	26.22	26.67	60.00	99.35	135.84	27.75
03/13/2013	09:13:45	101.53	103.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.90	27.48
03/13/2013	09:03:45	99.31	102.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.84	27.42
03/13/2013	08:53:45	99.65	101.07	100.32	6.12	25.23	25.72	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013	08:43:45	100.03	101.21	100.32	6.15	25.27	25.76	60.00	100.00	135.96	27.22
03/13/2013	08:33:45	99.10	101.07	100.85	6.09	25.14	25.64	60.00	100.00	135.96	27.21
03/13/2013	08:23:45	99.57	100.92	99.75	6.15	25.17	25.66	60.00	100.00	135.93	27.34

「Launch Log in New Window」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (\*.htm, \*.html)」形式を指定して保存してください。

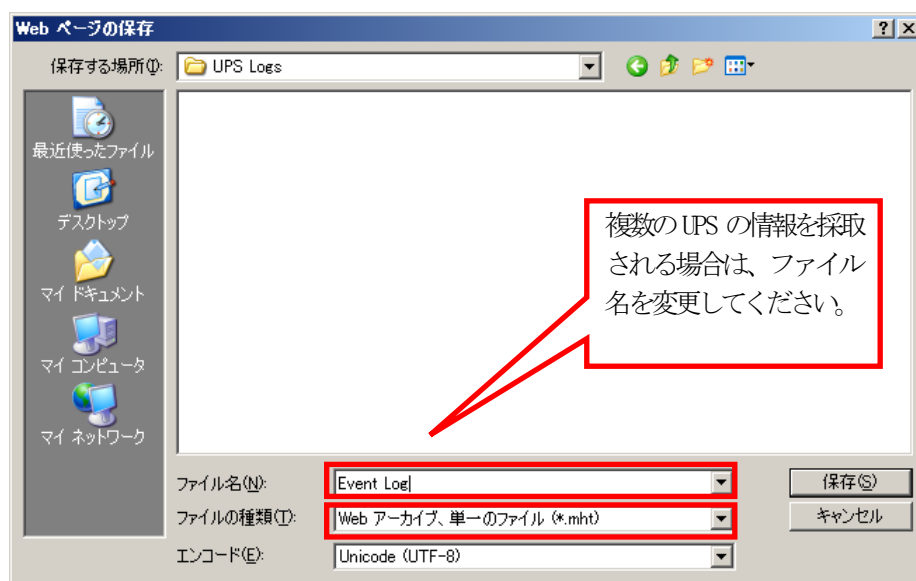


The screenshot shows a web browser window titled "Data Log - Windows Internet Explorer". The address bar shows a URL starting with "http://172.16.1.162/NMC/8D9RgOW+yN6jyHkqB1g/data.htm". The file menu is open, showing options like "新しいタブで開く...", "名前を付けて保存...", "タブを閉じる...", "ページ設定...", "印刷...", "送信...", "プロバティ...", "オフライン作業...", and "終了...". The main content area displays a table titled "Smart-UPS X 3000" with columns: "nin", "Vmax", "Vout", "Iout", "%Wout", "%out", "FrqOut", "%Cap", "Vbat", and "Tups". The table contains multiple rows of data, each starting with a date and time (e.g., "03/13/2013 08:33:45").

	nin	Vmax	Vout	Iout	%Wout	%out	FrqOut	%Cap	Vbat	Tups
03/13/2013 08:33:45	99.28	100.37	100.01	6.18	25.32	25.79	60.00	100.00	135.84	27.71
03/13/2013 08:33:45	99.75	101.82	100.07	6.15	25.28	25.75	60.00	100.00	135.81	27.78
03/13/2013 08:33:45	99.64	101.00	100.90	6.12	25.27	25.77	60.00	100.00	135.81	27.85
03/13/2013 08:33:45	99.31	100.60	100.17	6.15	25.23	25.71	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013 08:33:45	99.82	100.28	99.92	6.15	25.26	25.73	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013 08:33:45	99.20	102.31	98.85	6.46	26.22	26.67	60.00	99.35	135.84	27.75
03/13/2013 08:33:45	99.53	103.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.90	27.48
03/13/2013 08:33:45	99.31	102.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.84	27.42
03/13/2013 08:33:45	99.65	101.07	100.32	6.12	25.23	25.72	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013 08:33:45	99.03	101.21	100.32	6.15	25.27	25.76	60.00	100.00	135.96	27.22
03/13/2013 08:33:45	99.10	101.07	100.85	6.09	25.14	25.64	60.00	100.00	135.96	27.21
03/13/2013 08:33:45	99.57	100.92	99.75	6.15	25.17	25.66	60.00	100.00	135.93	27.34
03/13/2013 08:33:45	100.00	101.01	100.62	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.32
03/13/2013 08:33:45	100.31	101.75	100.50	6.12	25.15	25.66	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013 07:53:45	100.65	101.90	101.18	6.09	25.21	25.73	60.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013 07:43:45	100.29	103.45	100.93	6.31	26.10	26.60	60.00	99.89	135.90	27.40
03/13/2013 07:33:45	100.18	103.54	103.39	2.40	9.98	10.44	60.00	99.07	135.93	27.37
03/13/2013 07:23:45	102.57	103.59	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013 07:13:45	102.51	104.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013 07:03:45	99.12	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013 06:53:45	99.03	99.82	99.53	6.18	25.19	25.68	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013 06:43:45	99.03	100.07	99.73	6.18	25.22	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013 06:33:45	99.34	100.18	99.67	6.18	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013 06:23:45	98.64	100.31	99.78	6.15	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013 06:13:45	99.46	100.29	100.00	6.15	25.19	25.69	60.00	100.00	135.96	27.24
03/13/2013 06:03:45	99.46	100.25	99.73	6.15	25.18	25.67	60.00	100.00	135.96	27.19
03/13/2013 05:53:45	99.20	100.53	100.09	6.15	25.23	25.73	60.00	100.00	135.93	27.39
03/13/2013 05:43:45	99.31	102.37	100.12	6.37	26.17	26.66	60.00	99.88	135.90	27.43
03/13/2013 05:33:45	100.96	103.89	102.35	2.43	9.99	10.46	60.00	99.06	135.90	27.38
03/13/2013 05:23:45	103.37	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013 05:13:45	102.96	103.98	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013 05:03:45	100.20	103.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013 04:53:45	100.14	101.23	100.40	6.15	25.25	25.75	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013 04:43:45	100.26	100.92	100.59	6.12	25.19	25.70	60.00	100.00	135.90	27.38
03/13/2013 04:33:45	99.96	100.96	100.70	6.12	25.23	25.74	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013 04:23:45	99.81	100.96	100.59	6.12	25.17	25.67	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013 04:13:45	100.03	100.90	100.87	6.09	25.21	25.72	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013 04:03:45	99.67	100.65	100.25	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.37

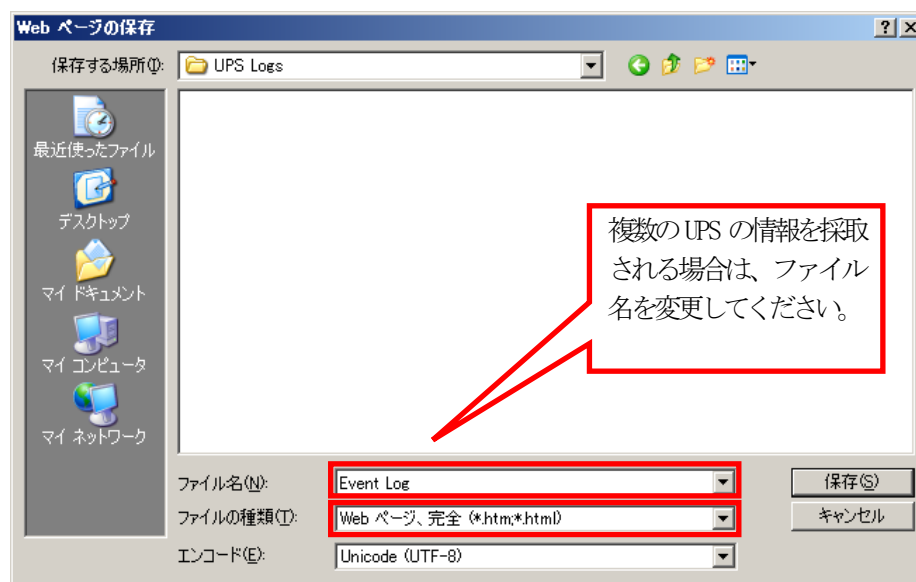


※②Logs → Events → Log、③Logs → Data → Log とともに、以下の方法で採取してください。  
(保存方法その1)



「Web アーカイブ、単一のファイル (\*.mht)」形式で保存する場合は、保存されるファイルが\*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

(保存方法その2)

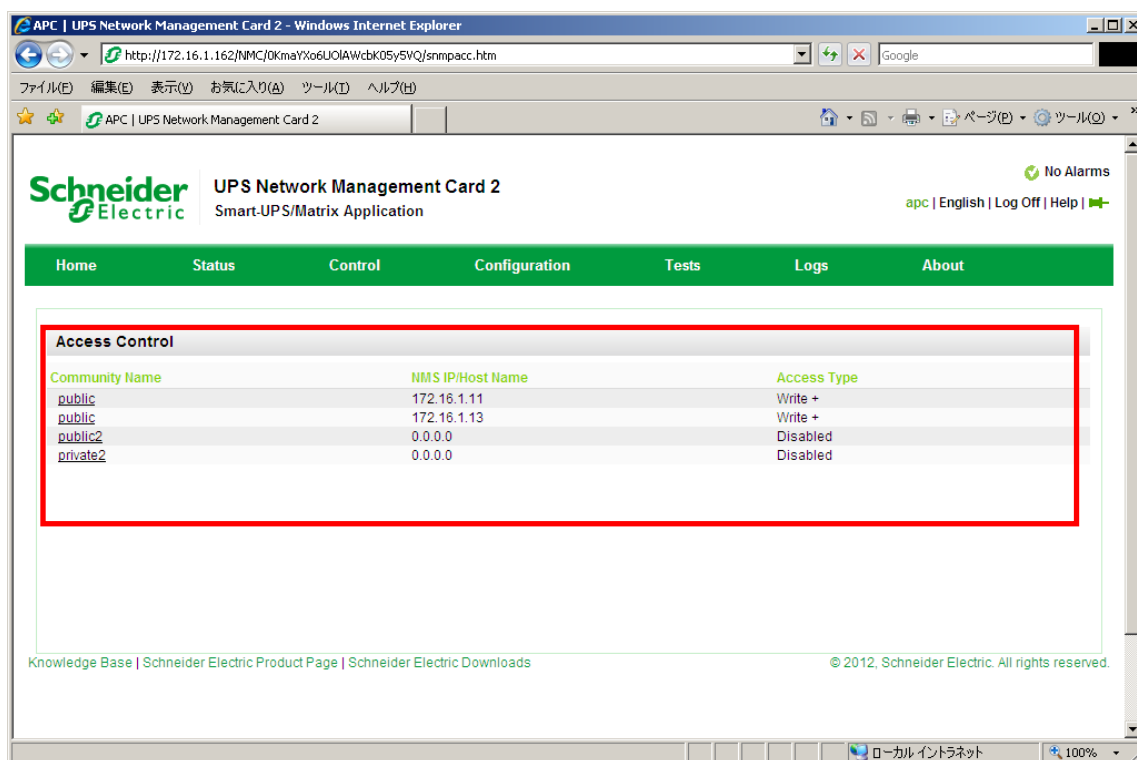


「Web ページ、完全 (\*.htm;\*.html)」形式で保存する場合は、htmファイルとEvent Log\_files\_という名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

#### ④access control情報

「Configuration」のメニューを選択し、「Network」→「SNMPv1」→「Access Control」と選択します。

下記Access Control 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、②、③と同様の方法で情報をファイルに保存してください。



APC | UPS Network Management Card 2 - Windows Internet Explorer

http://172.16.1.162/NMC/OKmaYXo6UOIAWcbK05y5VQ/snmpacc.htm

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

APC | UPS Network Management Card 2

No Alarms

apc | English | Log Off | Help

Home Status Control Configuration Tests Logs About

**Access Control**

Community Name	NMS IP/Host Name	Access Type
public	172.16.1.11	Write +
public	172.16.1.13	Write +
public2	0.0.0.0	Disabled
private2	0.0.0.0	Disabled

Knowledge Base | Schneider Electric Product Page | Schneider Electric Downloads

© 2012, Schneider Electric. All rights reserved.

ローカル イン트라ネット 100%

## 6.9 Collect ログおよび IPMI ログ

ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログおよび IPMI ログを採取してください。採取方法を以下に示します。

### ◆ Collect ログの採取

Collect ログは、ESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」で採取します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ（デフォルトは ¥ESM）の ¥tool フォルダ配下にあります。collect.exe を起動しますと、ログが「¥tool¥log」フォルダ配下に採取されます。

### ◆ IPMI ログの採取

IPMI ログは、ESMPRO/ServerAgent もしくは ESMPRO/ServerManager の「ESRAS ユーティリティ」で採取します。ESRAS ユーティリティを起動し、ツリーより最新情報をクリックし、最新情報の取得を行います。その後、ツリーの「Intelligent Platform Management Interface (IPMI) 情報」にマウスカーソルをあわせ、右クリックで表示されるメニューから「現在の IPMI 情報をバックアップする」を選択し、IPMI 情報をバックアップしてください。

※ このとき、指定するファイル名は「ipmi.dat」にしてください。